

Accuphase

MDS SUPER AUDIO CD PLAYER



SUPER AUDIO CD



MDS SA-CD プレーヤー

DP-600

取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属の「お客様カード」に必要事項を記入の上、必ず(なるべく10日以内に)ご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

※「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは32ページをご参照ください。

※「品質保証書」はサービスサポート時に必要となりますので大切に保管をしてください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。

警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

付属品を確認します

- 取扱説明書(本書) 1冊
- リモート・コマンダー RC-100 1個
- 安全上のご注意 1冊
- 単4乾電池 2個
- お客様情報の取扱いについて 1枚
- プラグ付オーディオ・ケーブル(1m) 1組
- お客様カード 1枚
- AC電源コード(2m) 1本
- 目隠しシール 1枚
- クリーニング・クロス 1枚

目次

付属品を確認します 表紙裏頁

1. ⚠警告 安全上必ずお守りください 2

- お使いになる前に 2
- ⚠注意/使用上の注意 3
- 接続上の注意 4
- DP-600からの録音について 4
- 本機で再生できるディスク 4
- 本機で再生できないディスクの例 4

2. 各部の名前

- フロントパネル、リアパネル 5
- ディスプレイ部/リモート・コマンダー 6

3. 接続図 7

4. 各部の動作説明 8~10

5. リモート・コントロール 11

6. ご使用方法

演奏の基本操作 12

機能設定: セッティング・モード

- 電源ON時のプレイ動作 13
- 自動ポーズの時間 13
- 変更した機能を初期設定に戻す 13

ディスプレイ部の表示例

- ディスクを入れて、▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押す 14
- ディスクを入れて、|| [PAUSE] ボタンを押す 14
- プレイ(演奏)中のディスプレイ 14
- ストップ(停止)状態でのディスプレイ 14
- TEXT情報付ディスクのディスプレイ例 15

いろいろな演奏方法

- 途中で演奏を中止するには 16
- 演奏を直ちに開始しないとき 16
- トラック(曲)を指定して演奏 16
- トラック(曲)の途中の演奏したい部分を探す 17

リピート(繰り返し)演奏

- ディスク全曲の繰り返し演奏: 全曲リピート 18
- 1曲の繰り返し演奏: 1曲リピート 18
- 曲中の指定区間の繰り返し演奏: A↔Bリピート 19

プログラム演奏 20, 21

外部機器を接続してデジタル・プロセッサ部を活用 22

- デジタル入力で外部機器を演奏 23
- デジタル・レコーダーで録音・再生をする場合 24

DG-48との接続例

- DG-48をデジタルで接続 25, 26
- DG-48をアナログで接続 27

7. 保証特性 28

8. 特性グラフ 29

9. ブロック・ダイアグラム 30

10. 故障かな?と思われるときは 31

11. アフターサービスについて 32

1. ⚠️ 警告 安全上必ずお守りください

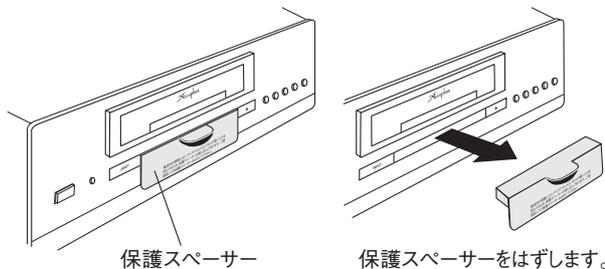
ご使用前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

- 電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。
 - AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。
- 電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。
 - 付属の電源コード以外は絶対に使用しない。
 - めれた手で電源プラグを絶対に触らない。
 - 電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしない。
 - 電源コードが傷んだら、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。
- 密閉されたラック等には絶対に設置しない。通風が悪いと機器の温度が上り、火災や故障の原因となります。
- 放熱のため、製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(10cm以上)をとる。
- 危険ですから脚の交換は行わない。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因となります。

- 機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)、新聞紙、テーブルクロスなどを置かない。
 - 火災又は感電を防止するために、雨がかかる場所又は湿気のある場所では絶対使用しない。
 - トップ・プレートやボトム・プレートなどは絶対にはずさない。内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。
 - 次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。
 - 内部に水や薬品などの液体がかかった場合。
 - 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
 - 故障や異常(発煙やおおいなど)と思われる場合。
 - 落としたり、破損した場合。
- ※ 電源コードをコンセントから抜かず、電源スイッチをOFFにただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。
- ※ 万一の場合、電源コードをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

お使いになる前に

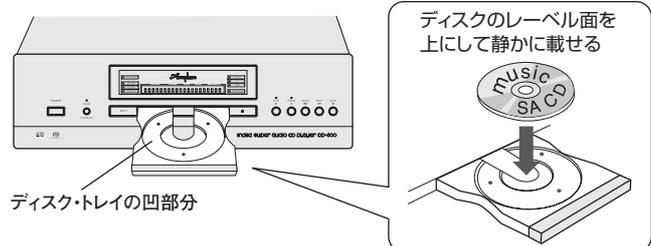
輸送時の振動により、ディスク・トレイとパネルが傷つくのを防止するため、保護スペーサーが差し込んであります。ご使用前にこの保護スペーサーをはずしてください。



※ アフターサービス等の輸送時にも、このはずした保護スペーサーを使用しますので、保存しておいてください。

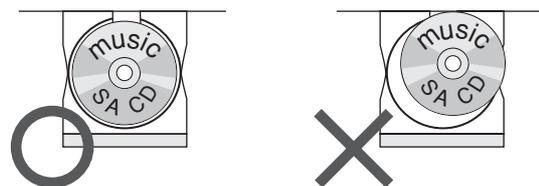
ディスクは正しく載せてください

ディスク・トレイの円形のくぼみ(凹)部分から《はみ出さない》ように、ディスクを中央に静かに載せてください。



トレイ円形凹部分から《はみ出ない》ように中央に載せる。

トレイ円形凹部分から《乗り上げ》ないように注意する。



- 凹部分から《はみ出して》載せると、ディスクに傷を付ける恐れがあります。
- ディスクを凹部分から《はみ出して》、乗り上げた状態のままトレイを閉じると、挿入口で噛み合い、トレイが途中で動かなくなる恐れがあります。
- ディスクを噛んで、トレイが途中で動かなくなった場合は、本機の電源スイッチを切ってから、手で静かにトレイを引き出してください。

⚠ 注意

◆ディスク・トレイが閉まるとき、挿入口に指を挟み込まないように注意する。

- 挟み込まれると、けがや故障の原因となります。
- 万一異物が挟まると、トレイを閉める力が弱まり、約5秒後に自動的にトレイが開きます。

■設置場所について。

必ず水平な場所に設置してください。次のような場所への設置は、故障や事故の原因となります。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い所
- 直射日光の当たる所
- 暖房器具の近くなど温度の高い所
- 極端に寒い所
- 振動や傾斜のある不安定な所

また、他の機器と直接重ねての使用は絶対に避けてください。

チューナーやテレビ、DVDレコーダー等から離して設置する。

- 近くに置くと雑音や映像の乱れが生じることがあります。(特に室内アンテナの場合は注意。)
- アンテナ線と本機の電源コードや入・出力コードを離して設置してください。

■レーザー光源をのぞき込まない。

レーザー光をのぞき込むと視力障害の原因となります。

■入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切ってから、確実にこなう。

- RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(ー)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。
- 電源を入れた状態で光ファイバーを抜き差しすると、ショック・ノイズを発生する場合があります。

■電源スイッチは、各機器が正しく接続されるまで入れない。

■電源スイッチのOFF直後、10秒以内に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

■長期間ご使用にならないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。

■入・出力端子などに接点保護剤などを絶対に使用しない。

樹脂部が経年変化で破損して感電や故障の原因となります。

■音量の調整について。

演奏を始める前は、大音量にならないようにアンプ側でボリュームを下げてください。

■HS-Linkケーブルの接続について。

- 必ず、付属または当社別売のHS-Linkケーブルを使用してください。
- 誤ってコンピューターのLAN等に接続すると、それぞれの機器やシステムを壊すおそれがあります。

■内部からの臭いについて。

購入後しばらくの間、トレイ開口部より内部の電気部品類から発生する臭いを感じる場合がありますが、これは異常ではありません。

使用上の注意

■CCCDの再生は、動作・音質を保証できません。

- コピー・コントロールCD(CCCD)など『著作権保護技術付音楽ディスク』は、現在のCD規格に準拠していない特殊ディスクのため、当社のCD再生機器による再生の動作・音質は保証できません。
- CCCD等の詳細につきましては、ディスクの発売元にお問い合わせください。

■光学系ピックアップの結露について。

冬期、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がついて曇ってしまう現象、これを結露といいますが、CDプレーヤーでも次のようなときに、ピックアップ・レンズに結露することがあります。

- ストープなど、暖房器具をつけた直後
- 湿度が高く、湯気が立ち込めている部屋に置いてあるとき
- 冷えた戸外や冷房のきいた部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだとき

結露してしまったら

結露すると、プレーヤーが正しく動作しなかったり、まったく作動しなくなります。ディスクを取り出して電源を入れておけば、約1時間ほどで露が取り除かれ、正常な作動をするようになります。

～ディスクの取り扱いについて～

- 直射日光が当たる場所や、高温多湿のところには置かないでください。
- 演奏終了後は、ホコリ・キズを避けるため、必ずケースに入れて保存してください。
- レーベル面の反対側が信号読み取り面です。持つ場合には、信号面をさわらないようにしてください。指紋やホコリなどの汚れは音質劣化の原因となります。
- ディスクのお手入れの場合は、柔らかい布で内側中心から外側へ軽く拭いてください。
- ベンジン、レコードクリーナー、静電防止剤などは、ディスクを傷めますので使わないでください。

お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のホコリやゴミ、指紋等汚れの拭き取りには付属のクロスを使用してください。特にサイドのウッド・プレートの場合には、表面を傷つけることなく、きれいに拭き取ることができます。
- 付属のクロスは、洗濯して繰り返し使用できます。洗剤で洗濯後は、よく水洗いし乾いた状態でご使用ください。
- ベンジン、シンナー、油、ワックス等を使用してお手入れは、表面を変色させたり、傷つけたりしますので使わないでください。
- ディスク・トレイ内のお手入れにアルコール類を使用しないでください。アルコールで拭くとディスク・クッション(3個)が剥れるおそれがあります。

接続上の注意

DP-600は一体型SA-CD/CDプレーヤーですが、トランスポート部とプロセッサ部を分離することができ、それぞれを単独で使用できる入・出力端子を装備しています。

■DP-600をSA-CD/CDトランスポートとして使用する場合

- ……『TRANSPORT OUTPUTS』端子から出力。
- デジタル・プロセッサDC-801等と接続します。(26ページ)
- CD信号のデジタル録音用として、デジタル・レコーダーと接続します。(24ページ)

メモ

HS-LINK端子からは、SA-CD/CDのデジタル信号が出力されます。また、COAXIAL/OPTICAL端子からは、CDのデジタル信号のみ出力されます。

■DP-600のデジタル・プロセッサ部を使用する場合

- ……『DIGITAL INPUTS』端子に外部信号を入力。
- トランスポートDP-800等の外部デジタル機器を接続します。(23ページ)
- デジタル・レコーダーの再生用として使用します。(24ページ)

■DP-600とDG-48の組み合わせ

- デジタル接続の場合 …… 25, 26ページ
- アナログ接続の場合 …… 27ページ

DP-600からの録音について

SA-CDのデジタル録音

著作権保護のため、SA-CDのデジタル録音はできません。

SA-CDのアナログ録音

DP-600をアナログ・プリアンプに接続後、プリアンプのREC端子から録音します。

CDのデジタル録音

「TRANSPORT OUTPUTS」端子のCOAXIAL/OPTICAL端子とデジタル・レコーダーを接続します。(24ページ)

- * HS-LINKからのCDデジタル信号は録音できません。
- * デジタル録音は、SCMS(シリアル・コピーマネージメント・システム)により第1世代だけになります。

メモ

入力切替ボタンでプロセッサ外部入力に切り替えても、本機のCDトランスポート動作は継続していますから、そのままCD録音が可能です。

CDのアナログ録音

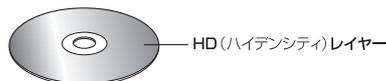
DP-600をアナログ・プリアンプに接続後、プリアンプのREC端子から録音します。

本機で再生できるディスク

- 本機で再生できるのは、SA-CDおよびCDの標準規格に合致したディスクだけになります。ディスクには必ず、SA-CDやCDマークが印刷されていますので、使用前にSA-CDやCDマークの有無をご確認ください。また、ディスク・パッケージの内容をよくお読みください。

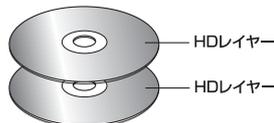


SA-CD：シングルレイヤー・ディスク



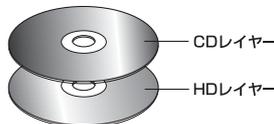
- HD(ハイデンシティ)レイヤー単層のSA-CDです。
- HDレイヤーは、SA-CD用の高密度信号層です。

SA-CD：デュアルレイヤー・ディスク



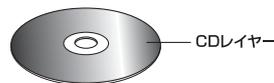
- HDレイヤーが2層になっているディスクで、長時間再生が可能なSA-CDです。
- 片面2層構造のため、再生時裏返す必要はありません。

SA-CD+CD：ハイブリッド・ディスク



- HDレイヤーとCDレイヤーが2層になっているディスクです。
- [SA-CD/CD] ボタンを押して、希望の層を選択します。
- 片面2層構造のため、再生時裏返す必要はありません。
- CDレイヤーは、通常のCDプレーヤーでも再生することができます。

CD



- 従来フォーマットのCDです。

本機で再生できないディスクの例

- CD-ROM
- DVD
- SA-CD-Multi
- DVD-Audio
- CD-RW
- dts-CD
- MP-3
- BD(ブルーレイ・ディスク)

※誤って使用するとノイズを発生する場合があります。
 ※CD EXTRA, CD-Rなどは録音状態によっては正常な動作をしないときがあります。

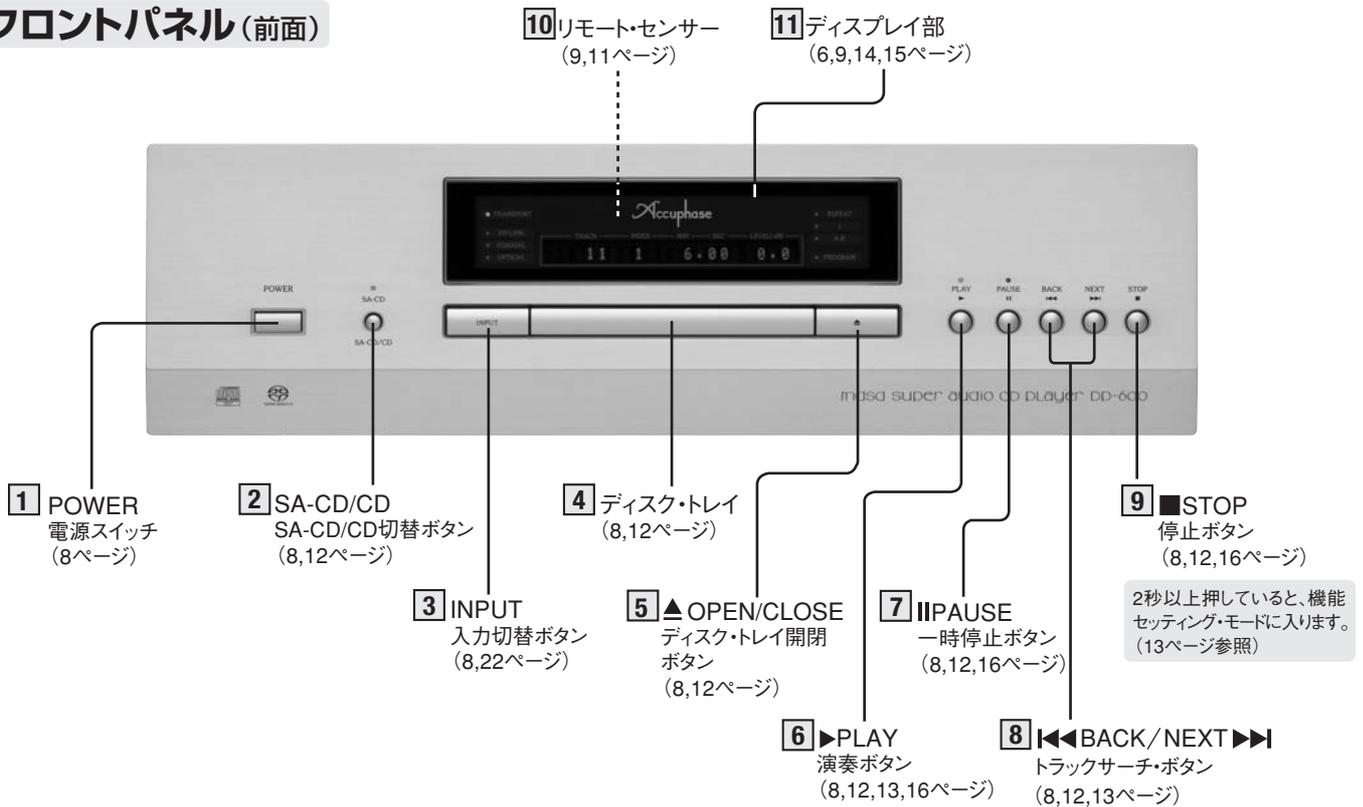
注意

- マルチチャンネルSA-CD(SA-CD-Multi)について
- 「2チャンネル+マルチチャンネル」ディスクの場合、2チャンネル・エリアは再生できますが、マルチチャンネル・エリアは再生できません。
- 2チャンネル・エリアがない、「マルチチャンネルのみのSA-CD」(規格外ディスク)が存在します。このディスクを再生すると、フロントL/Rチャンネルのみが再生されます。

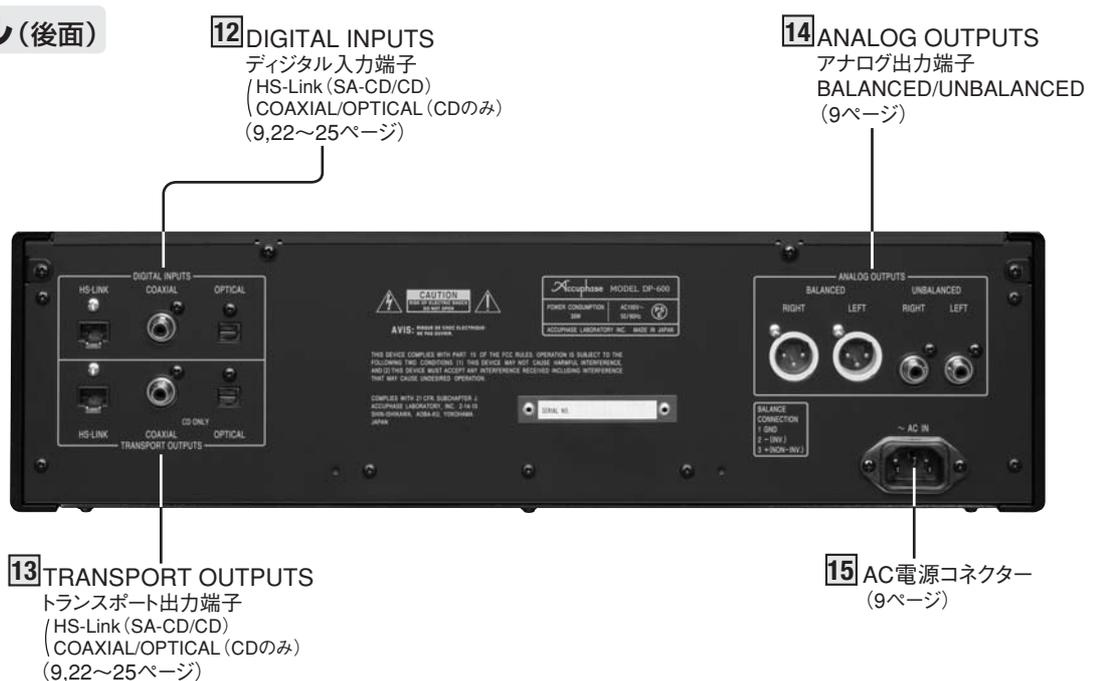
2. 各部の名前

詳しい説明は、各項目の()内のページを参照してください。

フロントパネル (前面)



リアパネル (後面)



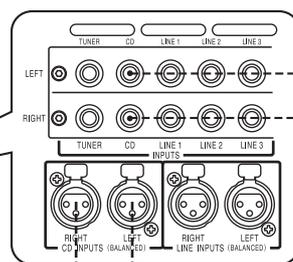
3. 接続図

⚠️ 注意：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

- 注意**
- アナログ出力の接続はオーディオケーブルを使用し、LEFT(左)、RIGHT(右)を正しく接続してください。
 - 同一機器同士でバランス用とアンバランス用の両ケーブルを同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。
 - デジタル機器との接続は、HS-Linkケーブル、同軸デジタルケーブル、光ファイバーなどを使用します。

アナログ出力の接続

プリアンプまたはプリメインアンプのCD、LINE、AUX等と表示のある端子に入力してください。



※オーディオケーブルは、シールド線(バランス用は2芯シールド)を使用してください。

DP-800の接続 (23ページ参照)

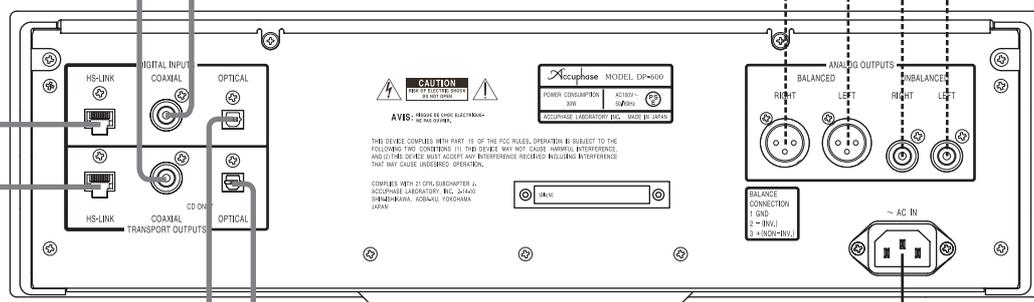


HS-Linkケーブル

デジタル・レコーダーの接続例 (24ページ参照)



同軸デジタルケーブル



バランス用ケーブル

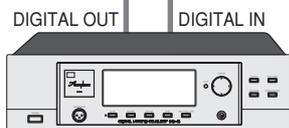
プラグ付オーディオケーブル(付属)

HS-Linkケーブル



DC-801の接続 (26ページ参照)

光ファイバー



デジタル・ヴォイシング・イコライザー DG-48の接続例 (25~27ページ参照)

AC電源コード(付属)
AC100V、50/60Hz

4. 各部の動作説明

- 詳しい使用方法は()内のページを参照してください。
- 本説明書では、「トラック」と「曲」を同義で扱っています。

1 POWER — 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。

- 電源スイッチをOFFにすると、一部の機能を除いて、それまでに設定された機能は解除されます。
- 電源スイッチのOFF直後、10秒以内に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

2 SA-CD/CD ボタン (12ページ)



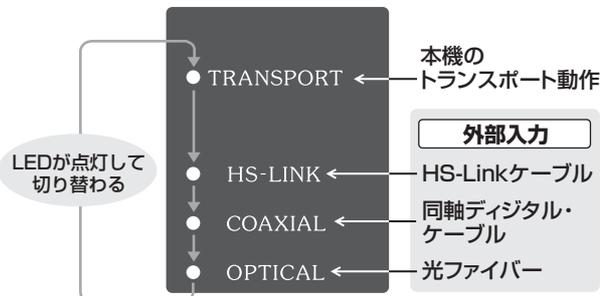
ハイブリッド・ディスクを再生する場合、ボタンを押してSA-CDまたはCDを選択します。

SA-CD : LED点灯
CD : LED消灯

- ハイブリッド・ディスクを入れると、SA-CDを優先して選択(演奏)します。
- ハイブリッド・ディスク以外は、入れたディスクを自動的に選択(演奏)します。
- TOCの読み込み中は、切り替えができません。
- 演奏中に切り替えると、その曲の頭から再生します。

3 INPUT — 入力切替ボタン (22ページ)

押すたびに、プロセッサ一部への入力信号が切り替わります。ディスプレイ部のLED点灯で確認します。ただし、ロックイン処理中は点滅します。



※本機のSA-CD/CDトランスポート演奏中にプロセッサ外部入力に切り替えても、本機のSA-CD/CDトランスポート動作は継続します。但しボタンを切り替えて、外部機器が接続されていないときや入力信号をロックインしないときは、アナログ出力が途切れます。

※リモートコマンダーRC-100の16 (INPUT SEL) ボタンでも同様の動作をします。

4 ディスク・トレイ (12ページ)

▲ (OPEN/CLOSE) ボタンを押すと手前に出てきます。ディスク・トレイ前面を軽く押すか、▲ (OPEN/CLOSE) ボタンをもう一度押すか、▶ (PLAY) ボタンまたは|| (PAUSE) ボタンを押すと閉じます。また、17ダイレクト・プレイボタン操作でも閉じます。

5 ▲ (OPEN/CLOSE) ボタン (12ページ)

押すとディスク・トレイが出てきます。もう一度押すと閉じます。

6 ▶ (PLAY) (演奏) ボタン (12,16ページ)

演奏を開始するときに押します。(LED点灯)

7 || (PAUSE) (一時停止) ボタン (12ページ)

演奏を一時停止するときに押します。(LED点灯)

8 ◀◀ (BACK) / (NEXT) ▶▶ — トラックサーチボタン (12,13ページ)

◀◀ (BACK) トラックサーチ・ボタン

演奏中や一時停止の状態、1回押すとそのトラックの頭に戻ります。押すごとに順次、前のトラックの頭へ飛びます。

(NEXT) ▶▶ トラックサーチ・ボタン

1回押すと次のトラックの頭へ飛びます。押すごとに順次、次のトラックの頭へ飛びます。

◎ 本体のボタンのみ、0.5秒以上押し続けると、それぞれ ◀◀ (FR) (早戻し) / (FF) ▶▶ (早送り) 動作となります。

9 ■ (STOP) (停止) ボタン (12, 16ページ)

PLAY (演奏) 中やPAUSE (一時停止) 中にこのボタンを押すと演奏停止になります。(PLAYやPAUSEのLED消灯)

※本体の■ (STOP) ボタンを2秒以上押すと、機能セッティング・モードに入ります。(13ページ参照)

10 リモートセンサー (11ページ)

付属のリモート・コマンダーRC-100の赤外線信号の受光部です。リモート・コマンダーの発光部をここに向けてください。

11 ディ스플레이部 (6,14,15ページ)

さまざまな情報を表示しますので、6ページを参照してください。

12 DIGITAL INPUTS — デジタル入力端子 (22～25ページ)

本機をデジタル・プロセッサ部として使用する場合の入力端子です。外部デジタル信号をHS-Link、同軸デジタル・ケーブル(COAXIAL)または光ファイバー(OPTICAL)で入力します。

13 TRANSPORT OUTPUTS — トランスポート出力端子 (24～26ページ)

本機のSA-CD/CDトランスポート部のデジタル出力端子です。

注意

- SA-CDデジタル信号は、トランスポート端子のHS-Linkのみから出力され、COAXIAL/OPTICAL端子からは出力されません。
- 入力セレクターでプロセッサ動作に切り替えても本機のトランスポート動作は継続しますから、CD録音はそのまま可能です。

14 ANALOG OUTPUTS — アナログ出力端子

アナログ・プリアンプのCD、LINEなどの入力端子と接続します。

UNBALANCED(不平衡出力)ジャック

通常のピンプラグ付オーディオ・ケーブルで接続します。

BALANCED(平衡出力)コネクタ

バランス伝送用出力コネクタで、ピンの極性は次のようになっています。



- ① : グラウンド
- ② : インパート(-)
- ③ : ノンインパート(+)

- 出力レベルは、リモート・コマンダーの**22** LEVEL ⊕ ⊖ ボタンで可変できます。(10ページ参照)
- バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

15 AC電源コネクタ

付属の電源コードを接続します。



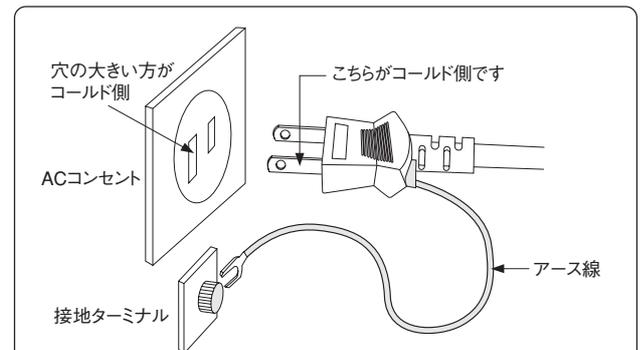
警告

電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

■電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。



警告

アース線の接地用ターミナルへの接続は、必ずプラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース線を外すときは必ずプラグをコンセントから抜いてから行ってください。

■電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

注意

※室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。

※大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。

16 INPUT SEL ボタン — 入力セクター

リアパネルのDIGITAL INPUTS端子に接続された入力信号を選択します。

※本体の **3** INPUT ボタンでも同様の動作をします。

17 ダイレクトプレイ・ボタン (16ページ)

トラック番号を直接指定して演奏を開始させます。

18 ◀◀ (FR) (早戻し) / (FF) ▶▶ (早送り) ボタン (17ページ)

PLAY(演奏)中およびPAUSE(一時停止)中に作動させ、聴きたい部分を探します。

19 リpeat(繰り返し演奏)ボタン (18,19ページ)

REPEAT

ディスクの全曲または1曲だけを繰り返して演奏します。

A↔B(指定区間の繰り返し演奏)

1曲中、指定区間の繰り返し演奏をします。

20 CONTINUE ボタン (20ページ)

プログラム再生中に押すと、通常の演奏に戻ります。

21 プログラム演奏ボタン (20,21ページ)

PROGRAM

聴きたいトラックだけをプログラムして、好きな順序で演奏を楽しむことができます。

CHECK(プログラム・チェック)

プログラムしたトラックの順番を確認します。

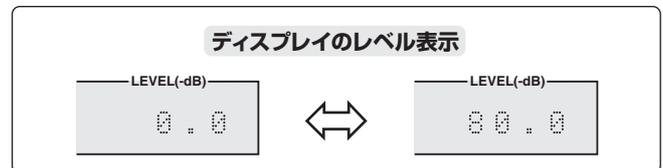
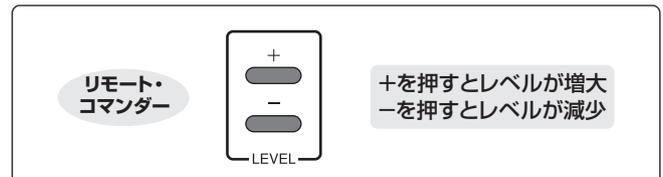
CLEAR

プログラムしたトラックを削除します。

22 LEVEL (+) (-) ボタン 出力レベル調整

アナログ出力のレベル調整をします。

デジタル方式により、0.0dB～-80.0dBの可変ができます。



23 ≧ (INDEX) ボタン インデックスサーチ (17ページ)

指定したインデックスの頭から演奏を始めることができます。

24 TIME ボタン タイム・モード切替 (14,15,21ページ)

押すたびに、曲中経過時間、曲中残量時間、トータル残量時間やTEXT情報等を表示します。

5. リモート・コントロール

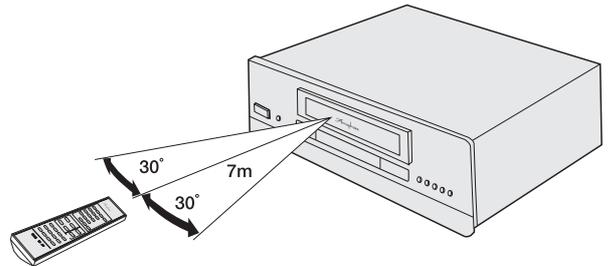
リモート・コマンダーRC-100

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-100を使うと、離れたところからDP-600の機能をコントロールすることができます。
(機能の詳細は6ページ参照。)

使用法

リモート・コマンダーの発光部を本体の⑩リモート・センサーに向けて、図の範囲内でお使いください。

- 落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。
- 直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。



電池について

■電池の交換時期

電池は普通に使って約8カ月は動作しますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールできなくなります。

- 使用する電池は、単4形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。
- 電池を廃棄するときは、地域の環境保全にご注意ください。

警告

乾電池は充電しない。電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。

注意

■電池について

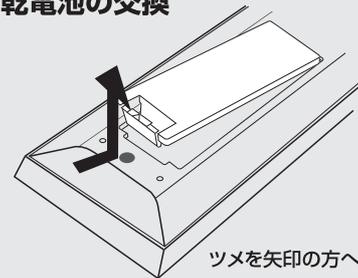
- 乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。
- 電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、⊕（プラス）、⊖（マイナス）を正しく合わせる。
- 新しい電池と、1度使用したものを混ぜない。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。
- 長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておく。
- 万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

■ テレビやインバータ照明等の近くに設置した場合、リモコンの動作が不安定になることがあります。故障ではありません。置く向きを変えたり、お互いに離してお使いください。

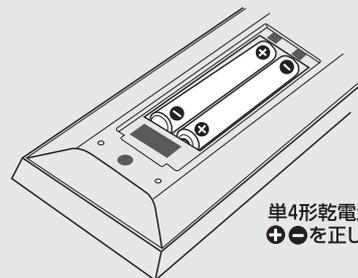
■ リモコンを落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。

■ 直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。

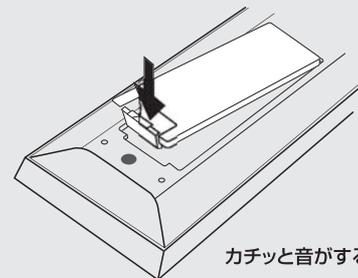
乾電池の交換



ツメを矢印の方へ押しして蓋を開ける。



単4形乾電池2個、
⊕ ⊖ を正しく入れる。

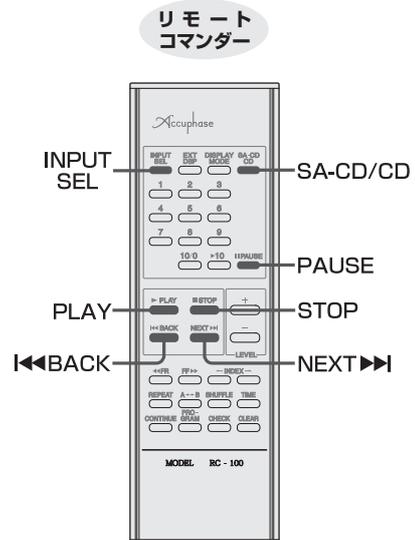
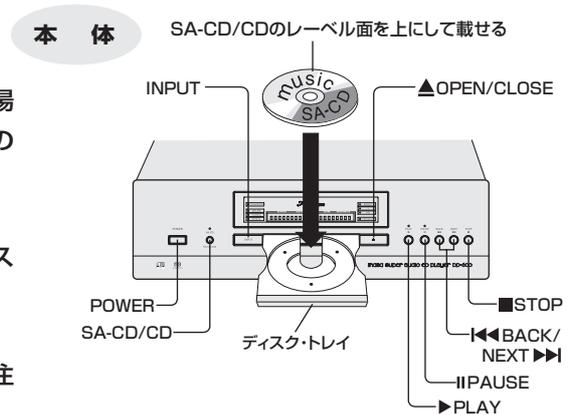


カチッと音がするまで閉める。

6. ご使用方法

演奏の基本操作

- 1 電源(POWER)スイッチを押し、電源を入れます。
- 2 デジタル・プロセッサー(外部入力)動作になっている場合は、本体の [INPUT] ボタンまたはリモート・コマンダーの [INPUT SEL] ボタンを押してトランスポート動作にします。
- 3 ▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押し([OPEN] と表示)て、ディスク・トレイを開けます。
- 4 レーベル面を上にして、ディスク・トレイの中央(2ページの注意参照)に載せます。
▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押して、ディスク・トレイを閉じます。
- 5 ハイブリッド・ディスクの場合は、SA-CDレイヤーを優先して選択(《SA-CD》LED点灯)します。CDレイヤーを選択する場合は[SA-CD/CD] ボタンで切り替えます。(《SA-CD》LED消灯)
 - ハイブリッド・ディスク以外は、自動的に《SA-CD》または《CD》を選択します。
 - TOC読み込み中は切り替えができません。
- 6 ▶ [PLAY] ボタンを押すと第1曲目から演奏がはじまります。(《PLAY》LED点灯)
- 7 最後の曲の演奏が終了すると、STOP(停止)状態になります。
- 8 ▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押して、ディスク・トレイを出します。ディスクを取り出したあと、ディスク・トレイは必ず閉じておいてください。



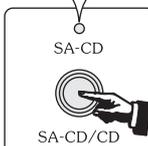
メモ : POWERや▲ [OPEN/CLOSE] ボタンは本体のみですが、他の機能は本体/リモコンのボタン、どちらでも操作できます。

演奏中の基本操作

- 演奏停止(ストップ) ■ [STOP] ボタン
- 演奏を一時停止(ポーズ) || [PAUSE] ボタン (《PAUSE》LED点灯)
- 一時停止をやめて演奏再開 ▶ [PLAY] ボタン || [PAUSE] ボタン (《PAUSE》LED消灯)
- 1曲先に進む [NEXT] ▶▶ ボタン
- 演奏中の頭または1曲前に戻る ... ◀◀ [BACK] ボタン
- ディスクを取り出す ▲ [OPEN/CLOSE] ボタン

※ハイブリッド(SA-CD+CD)ディスクの演奏時に、聞きたいレイヤーを切り替える場合

LED点灯/消灯



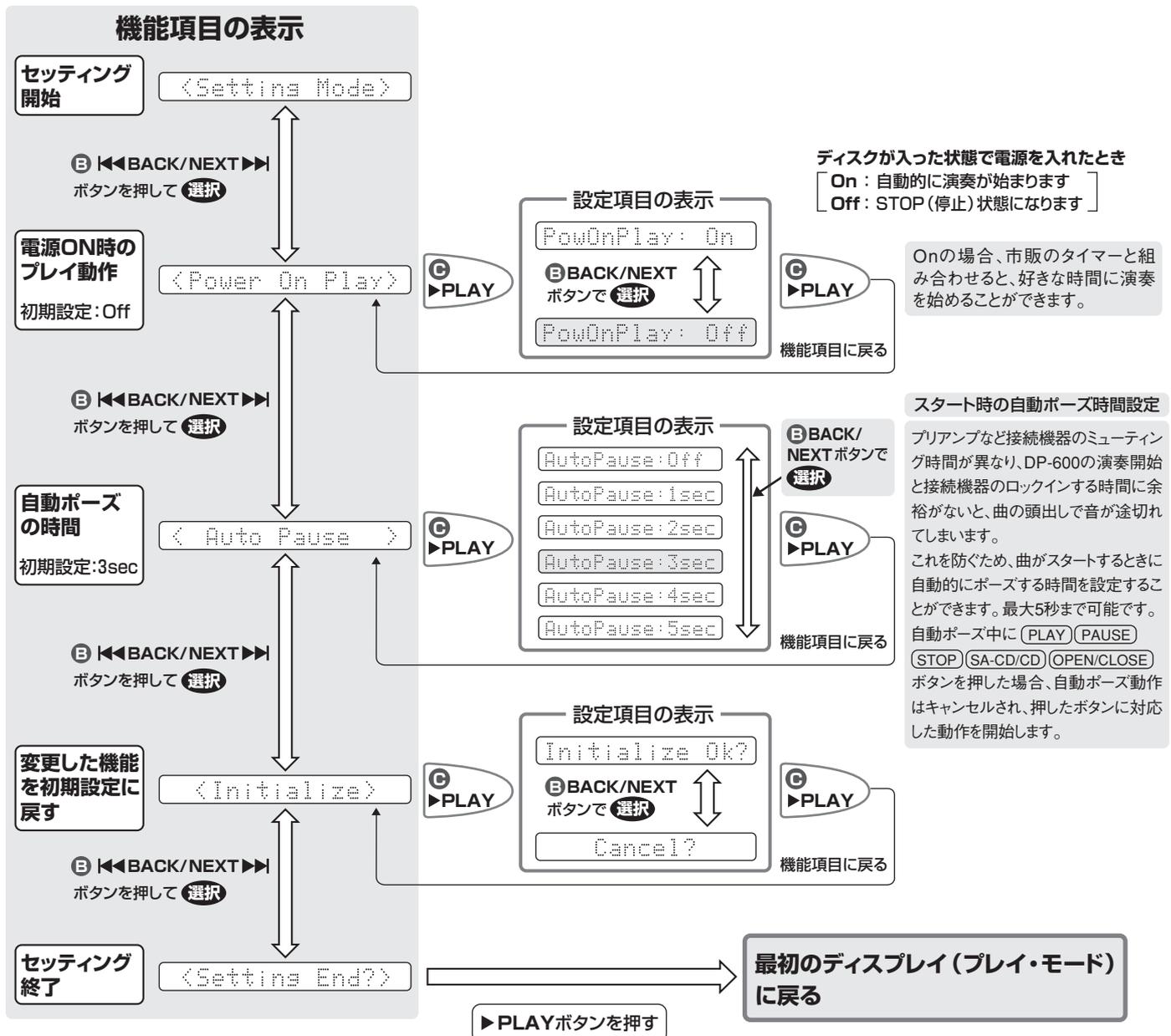
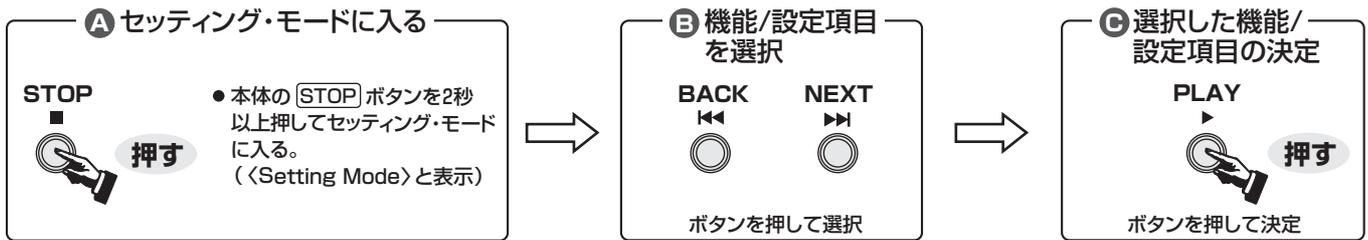
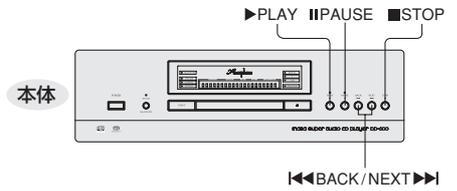
[SA-CD/CD] ボタン(本体またはリモート・コマンダー)を押す

- SA-CD : LED点灯
- CD : LED消灯

機能設定：セッティング・モード

[STOP] ボタンを2秒以上押し、セッティング・モードに入り、「電源ON時のプレイ動作」、「自動ポーズの時間」を設定することができます。また、変更した機能を初期設定に戻すことができます。

- セッティング・モードで動作できるのは、本体のボタンのみで、リモート・コマンダーのボタンは動作しません。



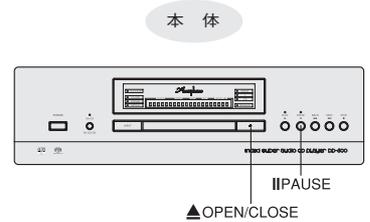
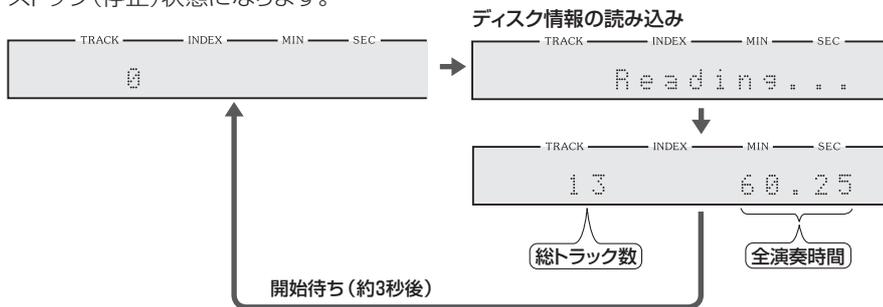
ディスプレイ部の表示例

ディスプレイ部は、ディスクや演奏中の曲に関するいろいろな情報を表示します。
ディスクの演奏中やストップ状態などの状態によって、表示する内容が変化します。

※イラスト例はテキスト情報の無いディスクです。また、イラスト内容は表示例のため、ディスクによって異なります。

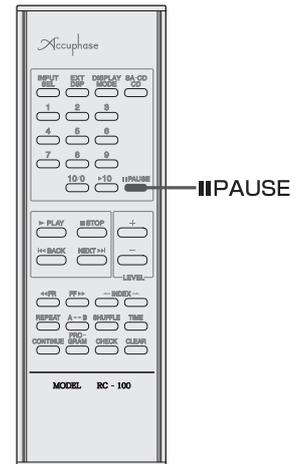
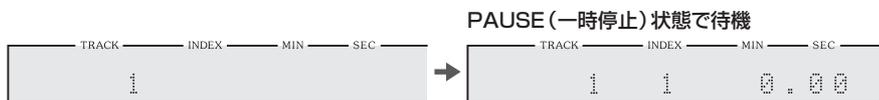
ディスクを入れて、▲(OPEN/CLOSE)ボタンを押す

▲(OPEN/CLOSE)ボタンを押すとディスク情報を読み込み、総トラック数、全演奏時間を表示後ストップ(停止)状態になります。



ディスクを入れて、II(PAUSE)ボタンを押す

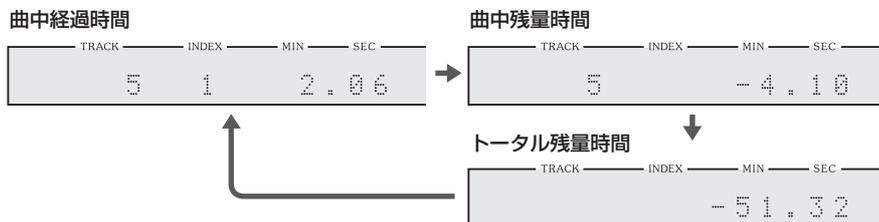
II(PAUSE)ボタンを押すと、1曲目の最初でポーズ(一時停止)状態になります。



プレイ(演奏)中のディスプレイ

TIMEボタンを押す

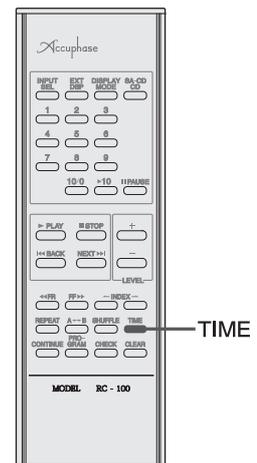
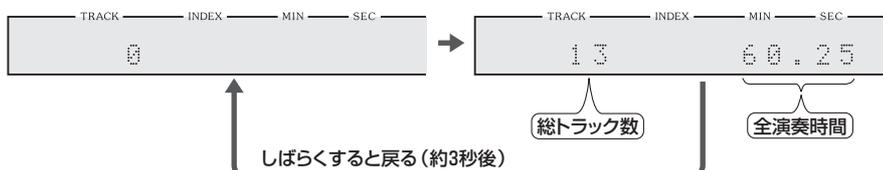
押すたびに、(曲中経過時間) → (曲中残量時間) → (トータル残量時間)を繰り返し表示します。



ストップ(停止)状態でのディスプレイ

TIMEボタンを押す

ディスクの総トラック数と全演奏時間を表示し、ストップ(停止)状態に戻ります。



TEXT情報付ディスクのディスプレイ例

TEXT付ディスクは、音楽信号の他にディスク名やアーティスト名などの情報が記録されています。

- TEXT付ディスクを入れると、ディスク名を表示します。
- TEXTの情報が14文字以上のときは、一度スクロール表示し、その後最初の14文字が固定表示されます。

注意

- 本機が表示できるのは、英数字だけです。日本語は表示できません。
- ディスクによっては、表示できない文字があります。
- 本機が表示できるTEXT情報は、ディスク名、アーティスト名、曲名だけです。その他の情報は表示できません。

プレイ(演奏)中のディスプレイ

TIME ボタンを押す

押すたびに下記の表示を繰り返し表示します。

曲中経過時間

TRACK	INDEX	MIN	SEC
5	1	2	06

曲中残量時間

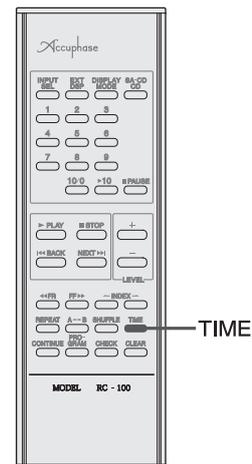
TRACK	INDEX	MIN	SEC
5		4	10

演奏中の曲名

TRACK	INDEX	MIN	SEC
Yokohama			

トータル残量時間

TRACK	INDEX	MIN	SEC
		51	32



ストップ(停止)中のディスプレイ

TIME ボタンを押す

押すたびに、(ディスク名) → (アーティスト名) → (全演奏時間) を繰り返し表示します。

ディスクのタイトル

TRACK	INDEX	MIN	SEC
Accuphase			

ディスクのアーティスト

TRACK	INDEX	MIN	SEC
Bach			

ディスクの総トラック数と全演奏時間

TRACK	INDEX	MIN	SEC
13		70	26

(TIME) を押す、又はしばらくすると戻る

いろいろな演奏方法

途中で演奏を止めるには

◎ 一時停止は

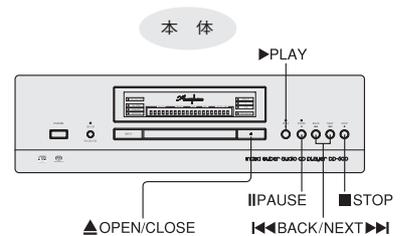
|| [PAUSE] ボタンを押します。《PAUSE》LEDが点灯して演奏は一時停止します。一時停止を解除するときは、再度 || [PAUSE] ボタンまたは ▶ [PLAY] ボタンを押してください。一時停止したところから演奏が始まります。

◎ 演奏を中止するには

■ [STOP] ボタンを押します。この場合は、続きの演奏はできません。

◎ ディスクを取り出すときは

演奏中でも、▲ [OPEN/CLOSE] ボタン(本体のみ装備)を押します。



演奏を直ちに開始しないとき

◎ ディスクを載せてから、▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押すと、ディスク・トレイが閉じてスタンバイ状態になります。

◎ ディスクを載せてから、本体またはリモート・コマンダーの || [PAUSE] ボタンを押すと、ディスク・トレイは閉じ、第1曲目の演奏開始待ち(PAUSE)の状態になります。

トラック(曲)を指定して演奏

◎ PLAY(演奏)中やSTOP(停止)状態のとき、ダイレクトプレイ・ボタン(1) ~ (9) 等のボタンを使うと、指定したトラックの頭から演奏を開始することができます。トラックの番号を直接押して選曲します。

- (1) ~ (9) 押したボタンのトラック番号から演奏開始
- (10/0) 10曲目を演奏
- 11曲目以降の演奏は (>10) ボタンを使用します

例： 15曲目の演奏 …… (>10) → (1) → (5)
 30曲目の演奏 …… (>10) → (3) → (10/0)
 100曲目の演奏 …… (>10) → (>10) → (1) → (10/0) → (10/0)

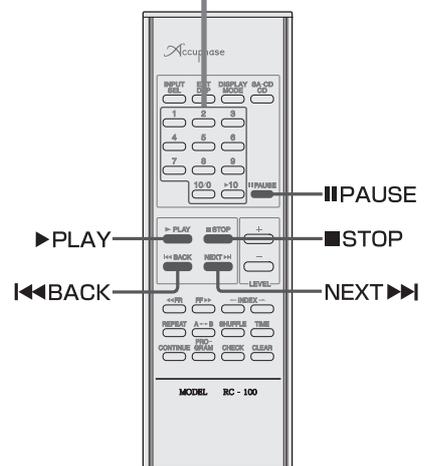
※ディスクに入っているトラック数以上の選曲はできません。
 ※総トラック数が、100曲以下のときに (>10) ボタンを2回押すと元の表示に戻ります。

◎ 演奏中に、◀▶ [BACK] / [NEXT] ▶▶ ボタンを使って、任意のトラックを選択します。

◎ PAUSE(一時停止)のとき、◀▶ [BACK] / [NEXT] ▶▶ ボタンを使って、任意のトラックを選択し、▶ [PLAY] ボタンを押します。

メモ

- PAUSE(一時停止)中にダイレクトプレイ・ボタンを押すと、押したトラックの頭でポーズ(一時停止)のままになります。
- 電源をONにしてTOC読み込み終了前に、ダイレクトボタンで11曲目以上を指定した場合、正常に指定できない場合があります。



トラック(曲)の途中の演奏したい部分を探す

PLAY(演奏)中に探す

- ◀◀ (FR) / (FF) ▶▶ ボタンを押し続けます。

再生音が断続的に聞えますので、希望の部分に近づいたら、ボタンを離します。
その部分から演奏を始めます。

PAUSE(一時停止)中に探す

- ◀◀ (FR) / (FF) ▶▶ ボタンを押し続けます。

再生音は聞えません。
時間表示をみながら、希望の部分に近づいたらボタンを離します。
その部分で一時停止になります。

メモ

PAUSE中に押すとPLAY中より早くサーチすることができます。

インデックスで探す: インデックス・サーチ

INDEXとは...

1曲の中で、いくつかの部分に区切って番号を付けたものです。
区切りのない曲は、**1**を表示します。

演奏中または一時停止中に、インデックス・サーチ・ボタンを使用すると、希望のインデックス番号の先頭から演奏を始めることができます。

◀ (INDEX) ボタン

一回押すと、演奏しているインデックスの先頭に戻ります。
押すごとに、前のインデックスの頭に戻ります。

▶ (INDEX) ボタン

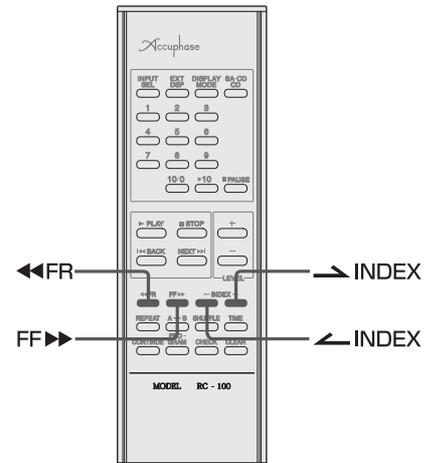
押すごとに、次のインデックスの先頭に進みます。

- ◆ サーチ中はタイム、インジケータは消えます。また、音も出ません。

注意

ディスプレイに ◀ Over!! ▶ と表示されたときは...

最後の曲の終わりまで進んでいますから
◀◀ (FR) ボタンで戻してください。



リピート（繰り返し）演奏

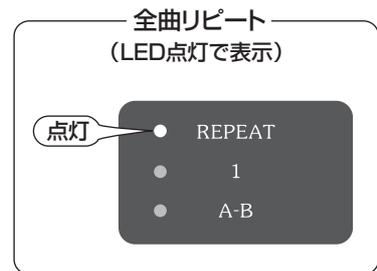
ディスク全曲／1曲／指定した特定部分(A→B)の繰り返し演奏ができます。

- プログラム再生のときも可能です。
- トレイOPEN時や本機の電源を切っても、全曲および1曲リピートは記憶されますが、A↔Bリピートは解除されます。

ディスク全曲の繰り返し演奏：全曲リピート

《REPEAT》ボタンを1回押して、▶《PLAY》ボタンを押す。再生中でも可能です。ディスプレイ上に《Repeat 》と表示され、《REPEAT》LEDが点灯し、全曲リピートが始まります。

通常の再生の場合 …………… 全曲を順番に再生
プログラム再生 …………… プログラムの曲順に再生



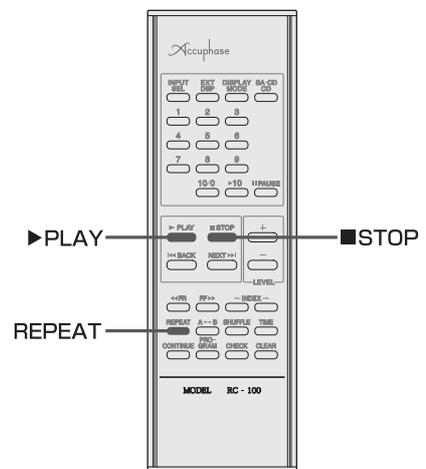
全曲リピートを中断するには…

- 《STOP》ボタンを押す。
- 再び▶《PLAY》ボタンを押すと、全曲リピートが始まります。

通常の演奏に戻すには…

- 《REPEAT》ボタンを2回押します。
- 《Repeat off 》と表示され、《REPEAT》LEDが消灯し、全曲リピートは解除されます。

メモ：押すごとにLED点灯/消灯とディスプレイ表示が切り替わります



1曲の繰り返し演奏：1曲リピート

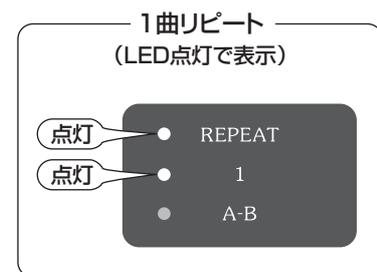
繰り返したいトラックの演奏中に、《Repeat 1 》が表示するまで《REPEAT》ボタンを繰り返し押します。《REPEAT》と《1》LEDが点灯すると、1曲リピートが始まります。

1曲リピートを中断するには…

- 《STOP》ボタンを押す。
- 再び繰り返したいトラック演奏を開始すると、1曲リピートが始まります。

通常の演奏に戻すには…

- 《REPEAT》ボタンを1回押します。
- 《Repeat off 》と表示され、《REPEAT》と《1》LEDが消灯し、1曲リピートは解除されます。

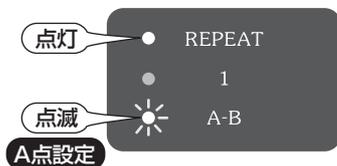


曲中の指定区間の繰り返し演奏：A↔Bリピート

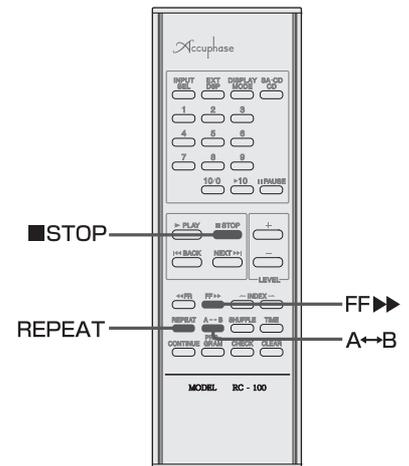
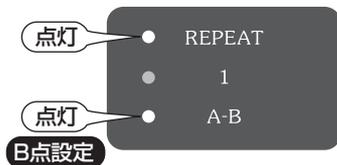
1曲中で聞きたい部分を指定し、そこだけを繰り返し演奏することができます。

注意 1曲の範囲(同一トラック内)を超えて指定することはできません。

- 1 演奏中に、繰り返しの始点(A点)で(A↔B)ボタンを押す。
ディスプレイ上の《REPEAT》LEDが点灯し、《A-B》LEDが点滅します。



- 2 そのまま演奏を続けて、繰り返しの終点(B点)で(A↔B)ボタンを押す。
《A-B》LEDが点灯に変わり、A↔Bリピートが始まります。
● (FF)▶▶ ボタンを使うと、手早くB点を決めることができます。



A↔B リピートを解除するには…

(REPEAT)ボタンまたは■(STOP)ボタンを押すと、A↔Bリピートは解除されます。
また、トレイOPEN時や電源を切った場合にも解除されます。

繰り返す指定区間を変更するには…

- 1 A↔Bリピート演奏中に、(A↔B)ボタンを押す。
ディスプレイ上の《A-B》LEDが点滅し、新しい始点(A点)に変わります。
- 2 そのまま演奏を続けて、繰り返しの終点(B点)で(A↔B)ボタンを押す。
《A-B》LEDが点灯に変わり、新たに指定したA↔Bリピートが始まります。

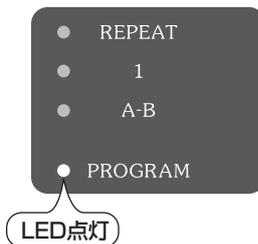
プログラム演奏

自分でプログラムして、聴きたい曲だけを好きな順序で演奏を楽しむことができます。
プログラムには、32曲(または合計時間999分59秒)まで登録することができます。

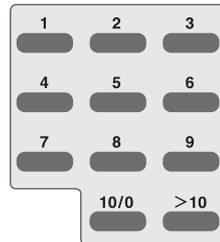
プログラムするには

1 STOP(停止)中に、(PROGRAM)ボタンを押すと、ディスプレイ上に
< Program > と表示され、数秒後には消えます。

- (PROGRAM)LEDが点灯してプログラム開始可能となります。
- (CONTINUE)ボタンを押すと、(PROGRAM)LEDが消灯し、プログラム・モードは解除されます。
但し、プログラムした内容を削除するには、ディスク・トレイを開けるか本機の電源を切ってください。
- 演奏中や一時停止中でもセットできますが、その過程は表示されません。



ダイレクトプレイ・ボタン

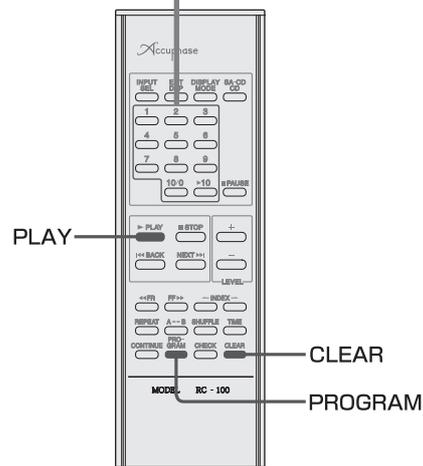


2 ダイレクトプレイ・ボタンを押して、トラック番号を入力します。
ボタンを押して入力すると、トラック番号、プログラムした順序(約2秒間)、プログラムした曲の合計演奏時間が表示されます。



- トラック番号を押しまちがえたときは、(CLEAR)ボタンを押して再入力します。
- 11曲目以降の入力は、(>10)を使用します。(16ページ参照)
- 途中の変更は次ページの「プログラムした内容を変更する」を参照してください。

3 プログラムが終わったら、▶(PLAY)ボタンを押す。
プログラムした順序で演奏が始まります。



プログラム演奏中に普通の再生に戻すには

(CONTINUE)ボタンを押すと、(PROGRAM)LEDが消え、< CONTINUE > と表示し普通の再生に戻ります。

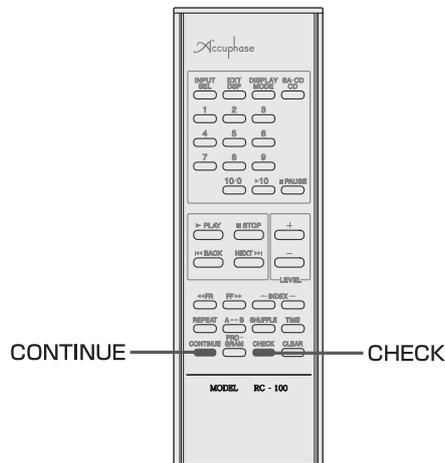
- プログラム内容はそのまま残っていますので、再度(PROGRAM)ボタンを押すと、現在演奏中のトラック終了後、再びプログラム演奏に戻ります。

プログラムの演奏順序や曲数がチェックできる

演奏の前や演奏中に、(CHECK)ボタンを1回押す度に、プログラムした第1曲目から順番に曲番とその曲の合計時間がディスプレイされます。演奏中はそれ以降の曲のプログラムから表示します。

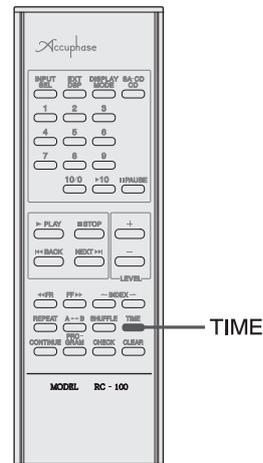
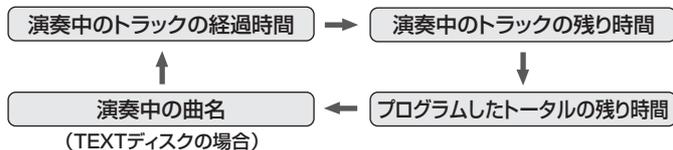
そのままにしておけば、6秒後に解除されて、ボタンが押される前の状態に復帰します。

※プログラムした曲の最後になると< Prog END > と表示します。



プログラム演奏中に (TIME) ボタンを押すと

押すたびに、下記のように繰り返し表示します。



プログラムした内容を変更する

演奏を始める前、または ■ (STOP) ボタンを押して停止中 のとき、プログラムの内容を変更できます。

※PLAY(演奏)中やPAUSE(一時停止)中にはできません。

●プログラムしたトラック(曲)を削除したいときは

(CHECK) ボタンを使って削除したい曲番を表示させ、(CLEAR) ボタンを押します。

●プログラムの最後に追加する

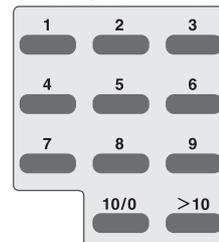
◀◀ (BACK) / (NEXT) ▶▶ ボタンを押して、追加したい曲を選び (PROGRAM) ボタンを押します。

または、リモート・コマンダーのダイレクト・プレイボタンで、追加したい曲番を押します。

●セットしたプログラムをすべて削除したいときは

(CLEAR) ボタンを < Prog CLEAR > と表示されるまで押し続けます。(約2秒間)

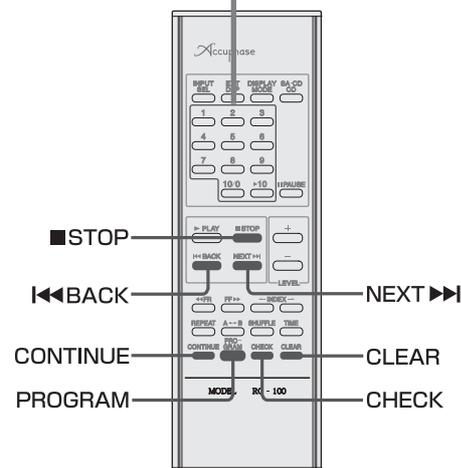
ダイレクトプレイ・ボタン



プログラムを解除するには

(CLEAR) ボタンを押し続け、< Prog CLEAR > と表示後、(CONTINUE) ボタンを押す。または、本機の電源を切るかディスク・トレイを開けるとプログラムは解除されます。

注意：ディスク・トレイを開けた場合、(PROGRAM) LEDは点灯していますが、▶ (PLAY) ボタンまたは (CONTINUE) ボタンを押すと消灯します。



プログラム演奏のご注意

- ▼演奏が終ってもプログラムは残っています。▶ (PLAY) ボタンを押すと再び演奏が始まります。
- ▼プログラム演奏中に ■ (STOP) ボタンを押すと、演奏は停止しますが、プログラムは解除されません。
- ▼プログラム演奏中に ◀◀ (BACK) / (NEXT) ▶▶ ボタンを用いれば、プログラム順序に従って、戻り/送りされ、希望のトラックの頭から演奏開始ができます。
- ▼プログラム演奏中においても INDEX(インデックス) ボタンを使用して演奏を楽しむことができます。

外部機器を接続してデジタル・プロセッサ一部を活用

外部のデジタル機器(CDトランスポート、レコーダー、DG-48等)を接続して、本機のデジタル・プロセッサ一部を活用することができます。

- 1** 外部接続機器の「デジタル出力端子」と本機の⑫「DIGITAL INPUTS」端子を接続します。
- 2** 各機器の電源を入れます。
- 3** 本体の **INPUT** ボタンを押す、またはリモートコマンダーの **INPUT SEL** ボタンを押して、接続した外部入力機器を選択します。入力信号をロックインすると、LEDが点滅から点灯に変わります。
- 4** 外部入力機器の操作にて演奏をお楽しみ下さい。

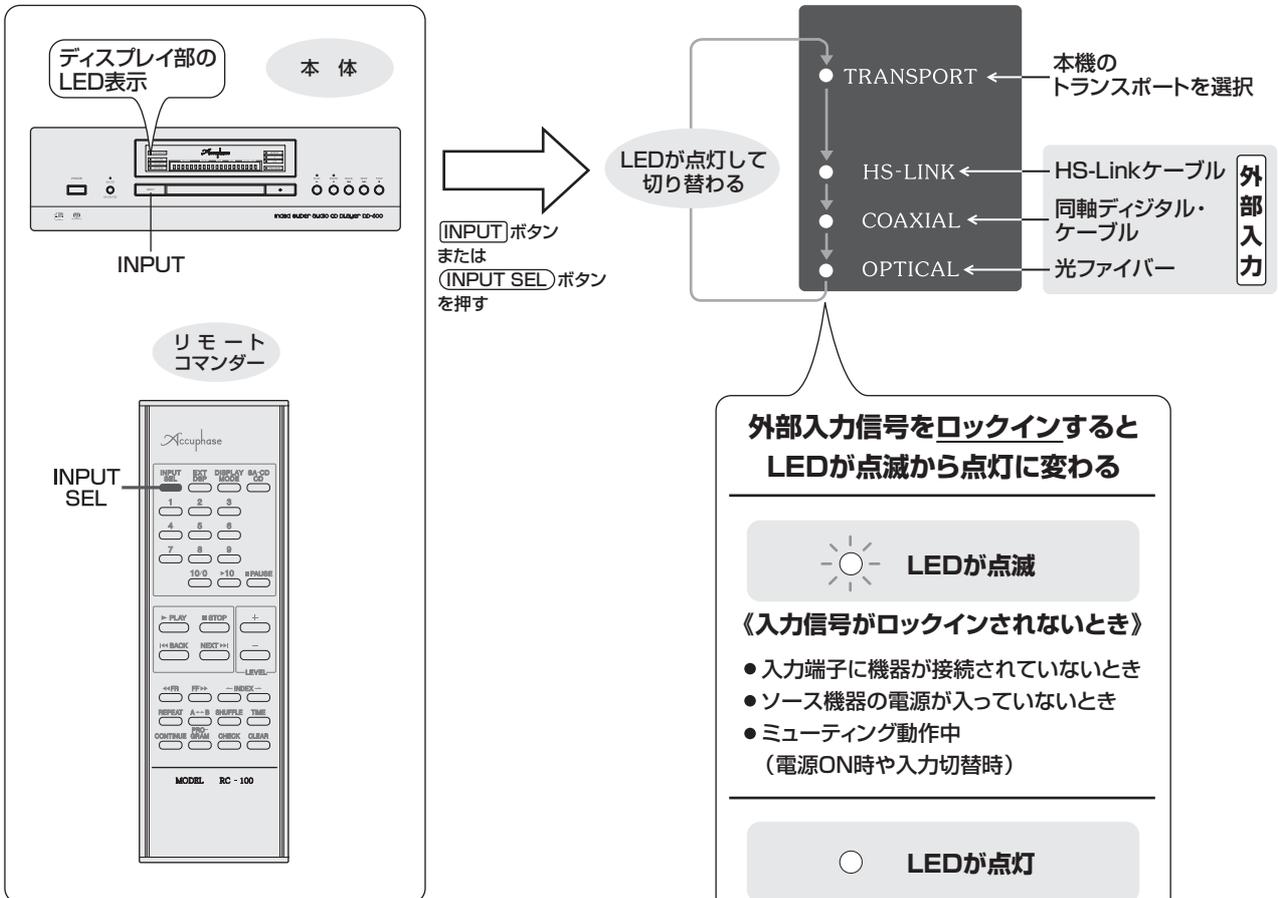
注意

- **INPUT** ボタンまたは **INPUT SEL** ボタンでプロセッサ動作に切り替えても本機のトランスポート動作は停止しません。したがってディスプレイ部のSA-CD/CDプレーヤー表示も変わりません。
- サンプル周波数のレベル精度が変動する入力は、音が途切れることがあります。

※SA-CD/CDプレーヤー動作に戻るには **INPUT** ボタンまたは **INPUT SEL** ボタンを押してトランスポート動作にします。

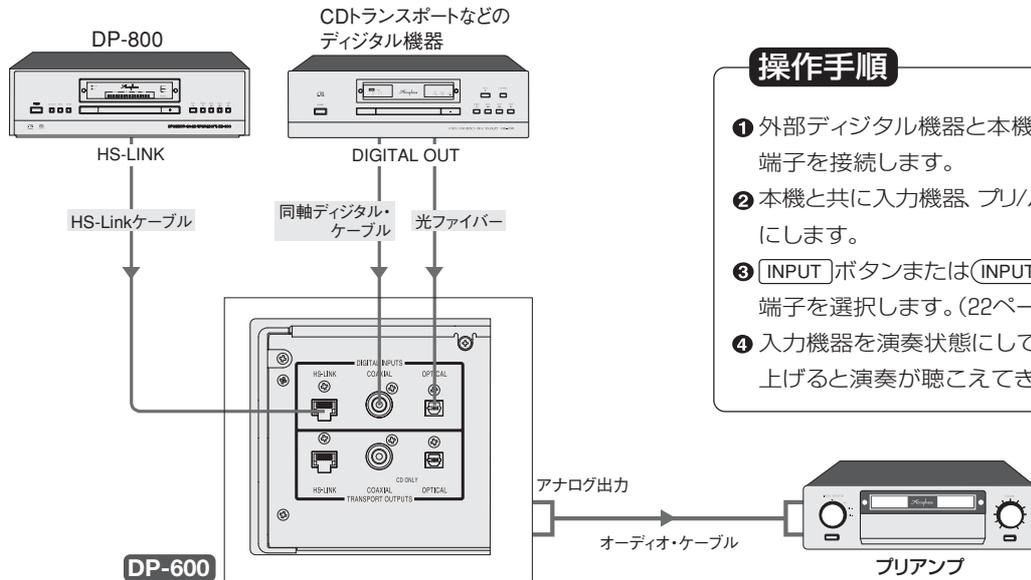
入力ソースの選択とディスプレイ部のLED表示

INPUT ボタンまたは **INPUT SEL** ボタンを押すごとに、⑫「DIGITAL INPUTS」端子(プロセッサ入力)が切り替わります。アナログ出力も切り替わりますが、ディスプレイ部は本機のプレーヤー表示のまま変わりません。



デジタル入力で外部機器を演奏

DP-800や外部CDトランスポート、MDなどの外部デジタル機器を接続、デジタル信号を入力して演奏することができます。



操作手順

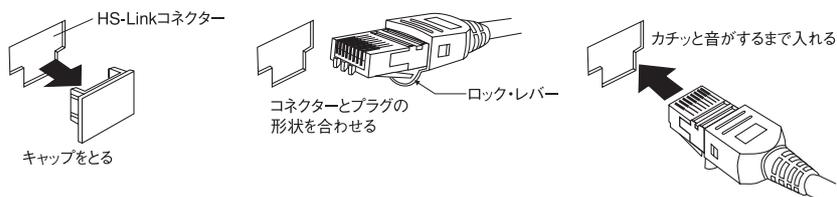
- 1 外部デジタル機器と本機の12「DIGITAL INPUTS」端子を接続します。
- 2 本機と共に入力機器、プリパワーアンプの電源を“ON”にします。
- 3 (INPUT) ボタンまたは(INPUT SEL) ボタンで接続した入力端子を選択します。(22ページ参照)
- 4 入力機器を演奏状態にして、プリアンプのボリュームを上げると演奏が聴こえてきます。

接続ケーブル

HS-LINK

HS-Linkケーブルで接続します。

本体のHS-Linkコネクターのキャップを取り外し、HS-Linkケーブルのプラグを端子の形状に合わせて、カチッと音がするまでまっすぐに差し込みます。抜くときは、プラグのロック・レバーを押しながら、軽く引き抜いてください。

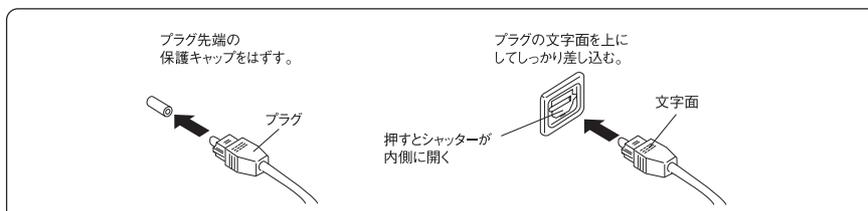


COAXIAL

ピンプラグ付同軸デジタル・ケーブルで接続してください。

OPTICAL

JEITA規格の光ファイバー接続用端子です。



注意

- 光ファイバーは、曲げなどの力には非常に弱く、断線する場合があります。長さに余裕があるときは、セットの後ろで丸く(直径10cm以上)束ねてください。決して強く曲げないでください。もちろん、切断、再加工などはできません。
- 光ファイバーは、コア(芯材)に光信号が通ります。プラグの先端のキズ、汚れ、レセプタクルの中の異物は天敵です。使用しない時には、必ずキャップを付けておいてください。
- 光ファイバーの抜き差しは、プラグをしっかり持って行ない、ファイバーを引っ張らないように注意しましょう。

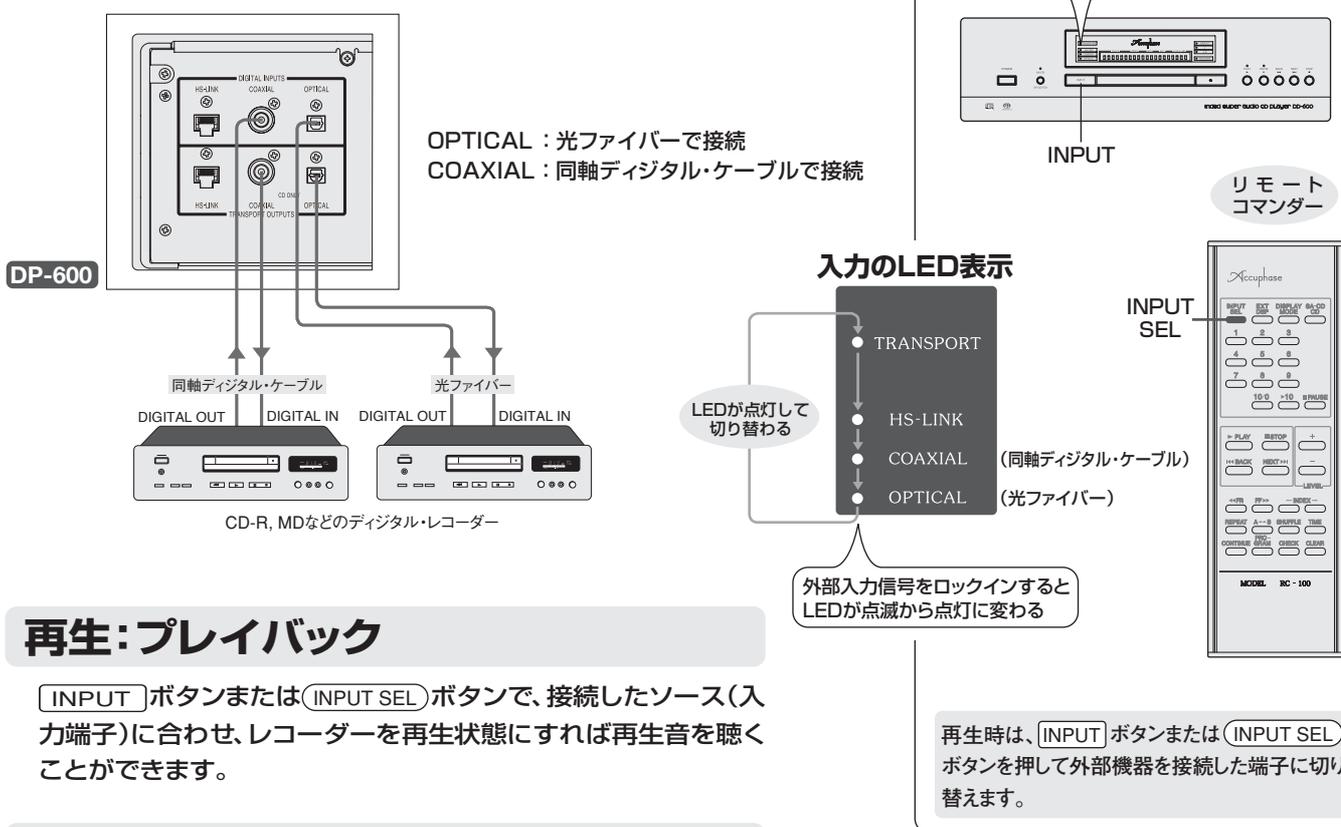
デジタル・レコーダーで録音・再生をする場合

デジタル・レコーダーを接続して、本機からのCD録音とレコーダーの再生ができます。

- 注意**
- 「TRANSPORT OUTPUTS」端子には、本機のCDデジタル信号が出力され録音可能になります。
 - 「INPUT」ボタンまたは「INPUT SEL」ボタンでプロセッサー外部入力に切り替えても本機のCDトランスポート動作は継続していますから、そのまま録音可能です。
 - SA-CDのデジタル信号は録音できません。

接続例

「DIGITAL INPUTS」端子 ⇔ レコーダーの“DIGITAL OUT”
 「TRANSPORT OUTPUTS」端子 ⇔ レコーダーの“DIGITAL IN”



再生: プレイバック

「INPUT」ボタンまたは「INPUT SEL」ボタンで、接続したソース(入力端子)に合わせ、レコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。

録音: レコーディング

操作手順

- ① 本機でCDを再生して、スピーカーから音を出して確認します。
- ② このデジタル信号が各「TRANSPORT OUTPUTS」端子からレコーダーへ出力されます。
- ③ デジタル録音は、レコーダー側で録音側のサンプリング周波数(CDの場合: 44.1kHz)を設定(変換)します。
- ④ レコーダーの録音をスタートすれば、本機のトランスポート(CD)のデジタル録音ができます。
- ⑤ 「TRANSPORT OUTPUTS」の各端子には、同一信号が出力されますので、接続してあるレコーダー(但し、録音側のサンプリング周波数に注意)で同時に録音することができます。

注意 録音中にプロセッサー外部入力に切り替えても、そのまま本機のCDトランスポートの録音を継続することができます。ただし、アナログ出力(スピーカーからの音)は外部接続機器の出力になります。

注意

- * デジタル録音の場合、SCMS(シリアル・コピー・マネージメント・システム)により、一度デジタル録音で作成したソースは他のDATやMDにデジタルで録音することはできません。
- * デジタル → デジタルでの録音の場合、ソース側とレコーダー側相互のサンプリング周波数が合わないと録音できません。

DG-48との接続例

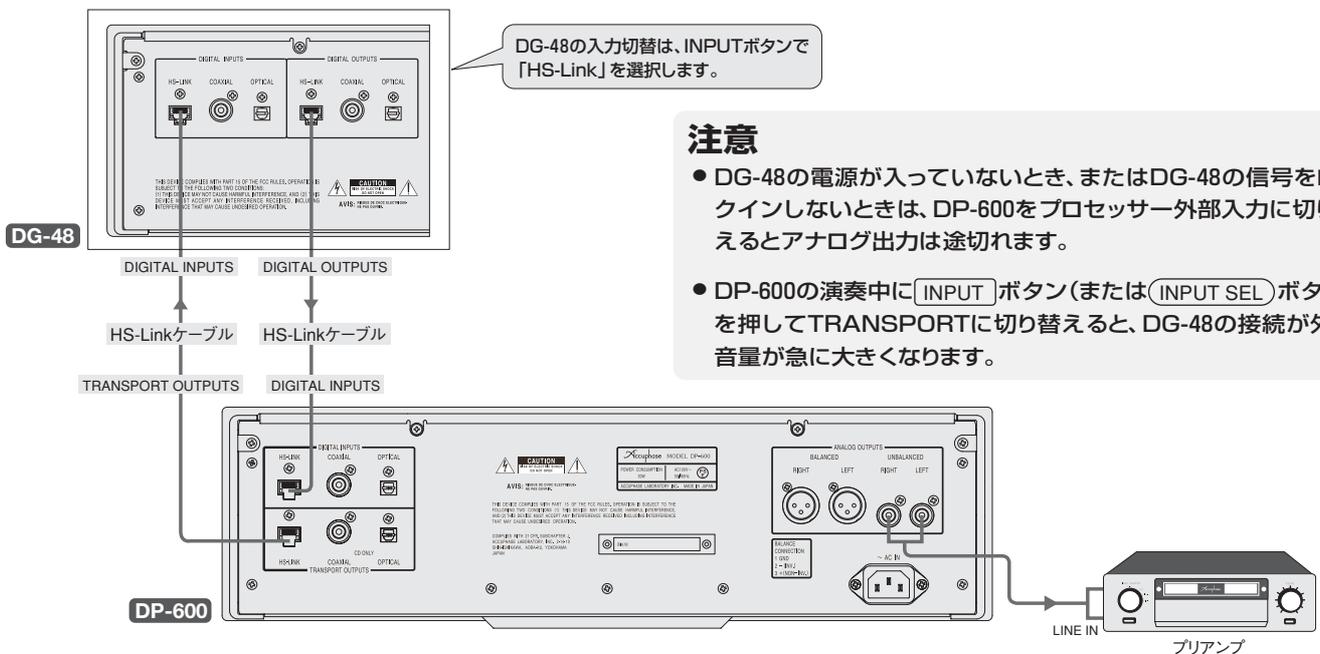
DG-48をデジタルで接続

デジタル・ヴォイシング・イコライザーDG-48を接続して、本機のSA-CD/CDのデジタル信号での音場補正が可能になります。

- 詳しい動作・接続方法は、DG-48の取扱説明書を参照してください。

接続例1 … DP-600に直接DG-48を接続する場合

HS-Linkケーブルの接続はSA-CD/CDの演奏が可能です。COAXIAL(同軸デジタル・ケーブル)とOPTICAL(光ファイバー)の接続はCDのみの演奏となります。



注意

- DG-48の電源が入っていないとき、またはDG-48の信号をロックインしないときは、DP-600をプロセッサ外部入力に切り替えるとアナログ出力は途切れます。
- DP-600の演奏中に「INPUT」ボタン(または「INPUT SEL」ボタン)を押してTRANSPORTに切り替えると、DG-48の接続が外れ音量が急に大きくなります。

DP-600とDG-48を接続した場合のLED点灯例

「INPUT」ボタンまたは「INPUT SEL」ボタンでDG-48挿入の切り替えをします。

接続例1の場合はHS-LINKを選択します。

DG-48の挿入 **OFF**

- TRANSPORT ← 音場補正をしない通常のトランスポート動作

DG-48の挿入 **ON**

- HS-LINK ← HS-Linkケーブル
- COAXIAL ← 同軸デジタル・ケーブル
- OPTICAL ← 光ファイバー

外部入力信号をロックインするとLEDが点滅から点灯に変わる

入力の切り替え



DG-48が接続されていない場合、またはロックインしていない(DG-48の電源が入っていない等)場合
LEDが点滅

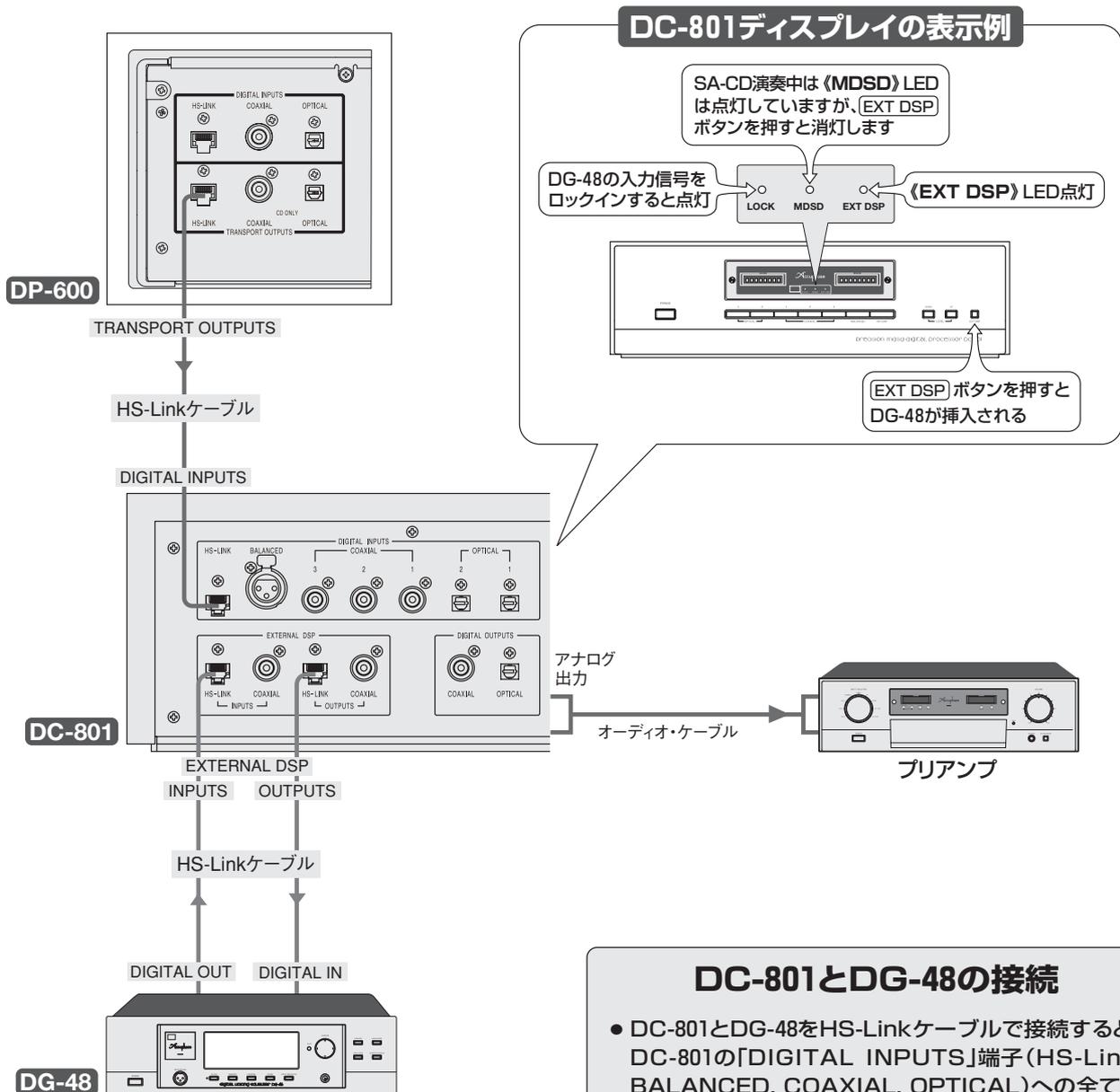
注意 ハイブリッド・ディスクを演奏時にSA-CD/CD切替ボタンを押すと、切り替えの間LEDが点滅してから点灯に変わります。

接続例2 ... DP-600とDC-801を接続し、DC-801にDG-48を接続

DP-600のトランスポート部のみを使用する接続方法です。

DP-600の「TRANSPORT OUTPUTS」端子とDC-801の「DIGITAL INPUTS」端子をHS-Linkケーブルで接続します。DC-801の「EXTERNAL DSP」端子とDG-48を接続します。DG-48を接続は、DC-801の「EXT DSP」ボタンを押して、DG-48の接続をON/OFFすることができます。

- DC-801/DG-48の詳しい動作・接続方法は、DC-801/DG-48それぞれの取扱説明書を参照してください。



注意

「EXT DSP」端子に機器が接続されていないとき、またはDG-48の信号をロックインしないときは、「EXT DSP」ボタンを押してONにすると、アナログ出力は途切れます。

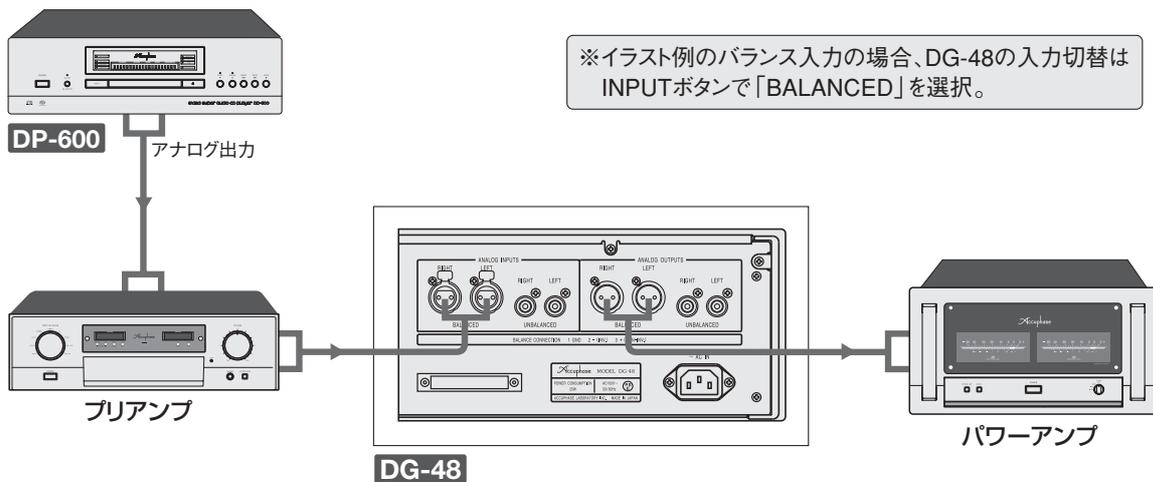
DC-801とDG-48の接続

- DC-801とDG-48をHS-Linkケーブルで接続すると、DC-801の「DIGITAL INPUTS」端子(HS-Link, BALANCED, COAXIAL, OPTICAL)への全ての入力信号が、DG-48と入・出力されます。
- DG-48をCOAXIAL(同軸デジタル・ケーブル)で接続した場合、SA-CD信号はロックインしません。
- HS-LinkとCOAXIAL両方のケーブルを接続した場合、HS-Linkが優先します。

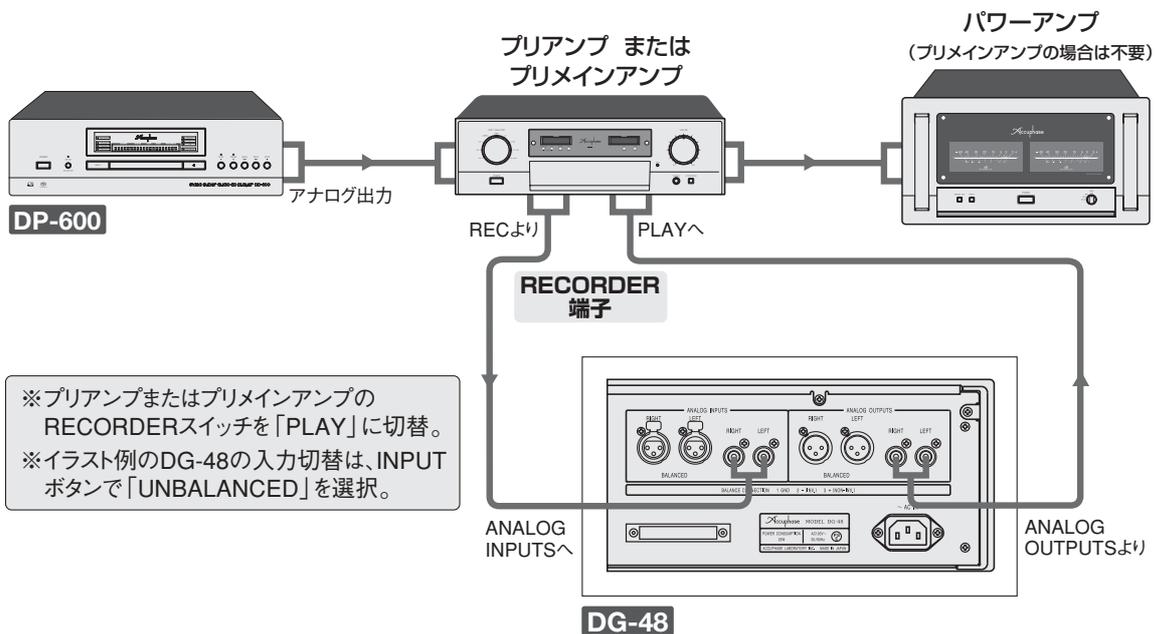
DG-48をアナログで接続

DG-48には、アナログ入・出力端子が標準装備されています。DG-48をプリアンプとパワーアンプの間、またはプリアンプなどのRECORDER端子へ接続して音場補正が可能です。

接続例1 …DG-48をプリアンプとパワーアンプの間に接続します。



接続例2 …プリアンプまたはプリメインアンプのRECORDER端子とDG-48を接続します。



7. 保証特性

[保証特性はJEITA測定法CP-2402Aに準ずる]

[測定用ディスク:PHILIPS 3122-783-00632]

トランスポート部

適合ディスク

- 〔2チャンネルSuper Audio CD
- 〔CD

読み取り方式

非接触光学式

レーザー・ダイオード発光波長

- 〔SA-CD用 : 650nm
- 〔CD用 : 780nm

トランスポート出力

- 〔HS-LINK コネクタ形状 : RJ-45
適合ケーブル : HS-Link専用ケーブル
- 〔COAXIAL フォーマット : IEC 60958準拠
- 〔OPTICAL フォーマット : JEITA CP-1212準拠

デジタル・プロセッサ部

デジタル入力

- 〔HS-LINK コネクタ形状 : RJ-45
適合ケーブル : HS-Link専用ケーブル
- 〔COAXIAL フォーマット : IEC 60958準拠
- 〔OPTICAL フォーマット : JEITA CP-1212準拠

サンプリング周波数 32kHz, 44.1kHz, 48kHz, 88.2kHz, 96kHz
(各16~24bit 2ch PCM)

[HS-LINKのみ対応]

176.4kHz, 192kHz(各24bit 2ch PCM)
2.8224MHz (1bit 2ch DSD)

D/Aコンバーター

- 〔MDS方式(DSD信号)
- 〔MDS++方式(PCM信号)

周波数特性

0.7~50,000Hz +0, -3.0dB

全高調波ひずみ率 + 雑音

0.0008% (20~20,000Hz間)

S/N

114dB

ダイナミックレンジ

110dB (24bit入力, LPF:OFF)

チャンネル・セパレーション

108dB (20~20,000Hz)

出力電圧・出力インピーダンス

- 〔BALANCED : 2.5V 50Ω 平衡 XLRタイプ
- 〔UNBALANCED : 2.5V 50Ω RCAフォノジャック

出力レベル・コントロール

0.0dB~-80.0dB (デジタル方式)

全 体

電 源

AC100V 50/60Hz

消費電力

30W

最大外形寸法

幅465mm × 高さ150mm × 奥行393mm

質 量

18.5kg

付属リモート・コマンダー RC-100

リモコン方式 : 赤外線パルス方式

電 源 : 単4形乾電池2個使用

最大外形寸法 : 56mm×175mm×26mm

質 量 : 155g(電池含む)

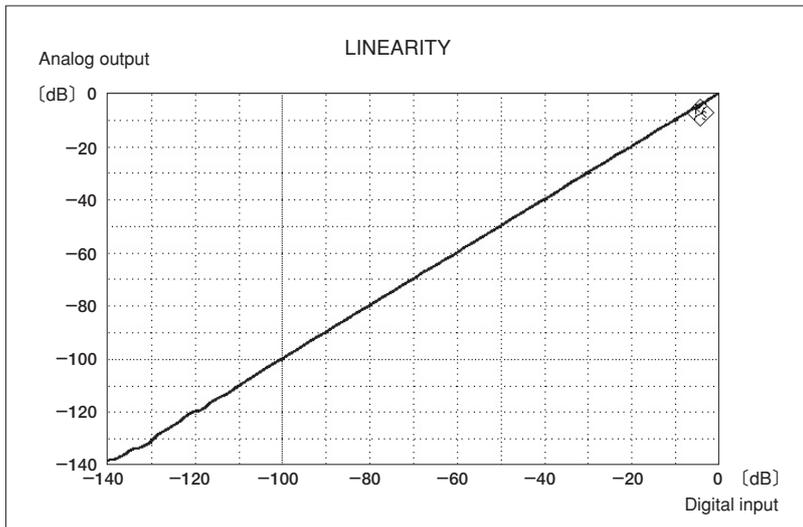
●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。

JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第3-2部:限度値—高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

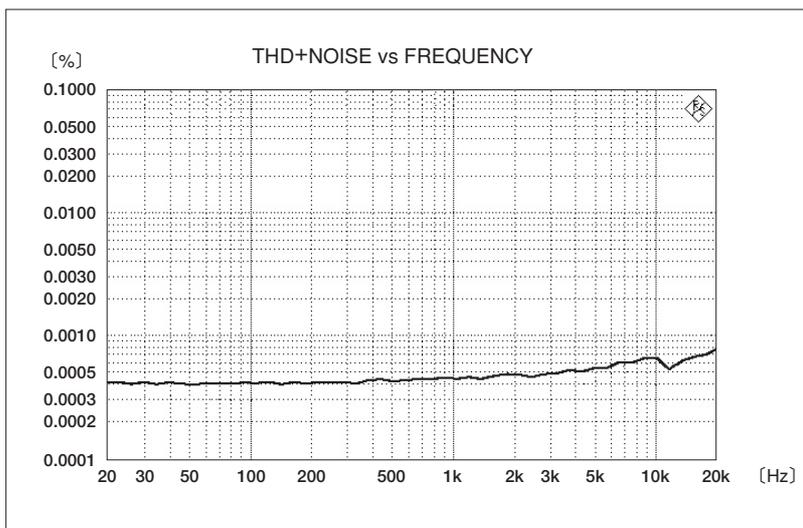
著作権について

放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

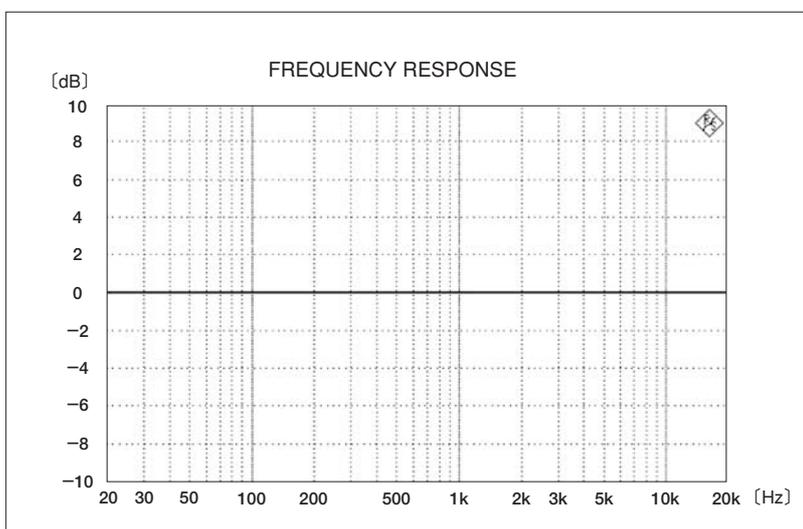
8. 特性グラフ



リニアリティ
(デジタル入力対アナログ出力)

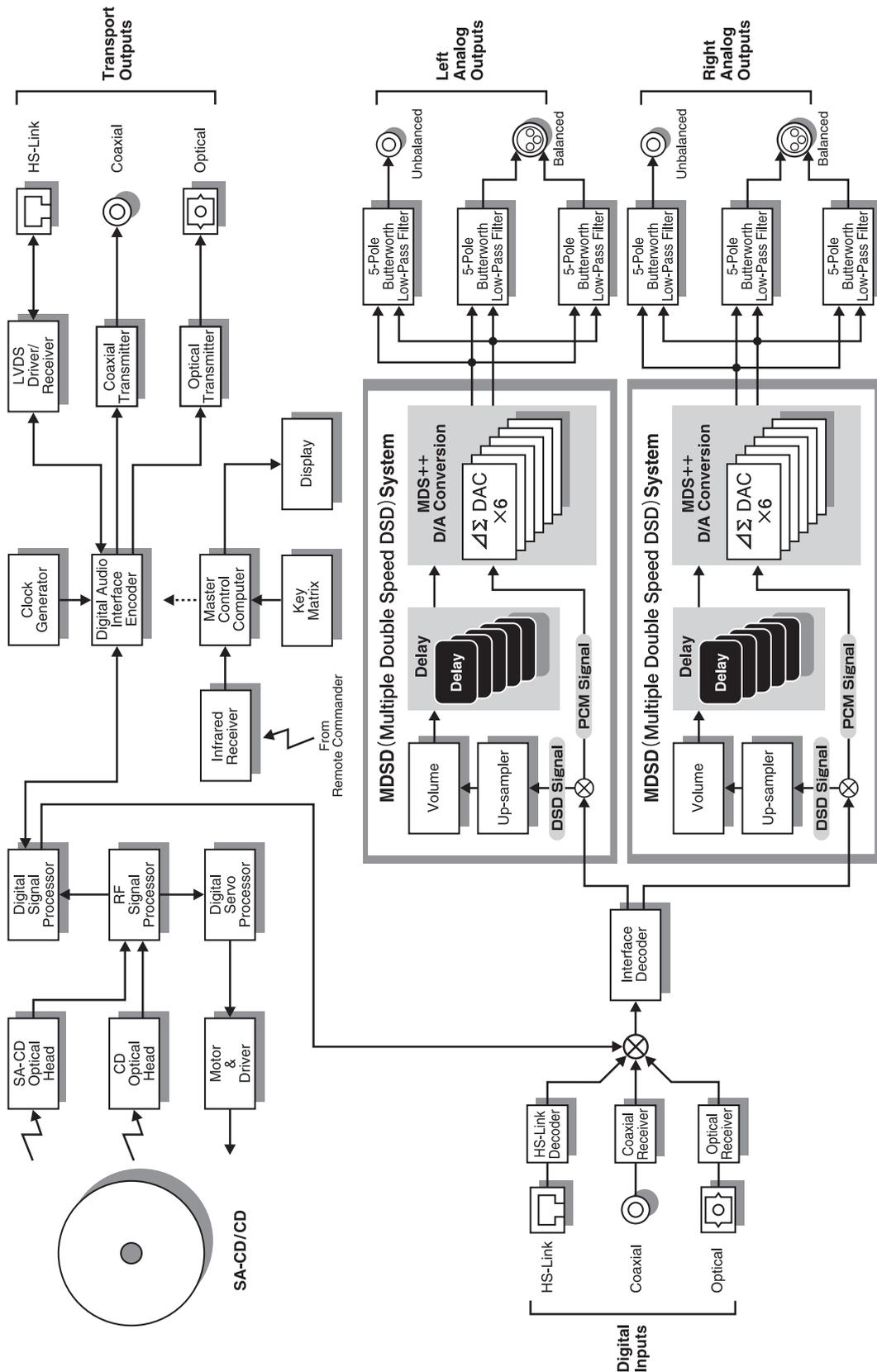


全高調波ひずみ率
(雑音含む) 対周波数特性



周波数特性

9. ブロック・ダイアグラム



10. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。
これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。



注意 : 接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない(ディスプレイが点灯しない)

- 電源コードが抜けていませんか。(本体側、コンセント側確認)
- 電源コードが傷んでいませんか。
……………傷んでいる場合は危険ですから当社品質保証部に連絡ください。

演奏が始まらない

- ディスクが正常に装着されていますか。(2ページ参照)
- 低温時であれば、結露の可能性もあります。(3ページ参照)
- 本機で演奏できるディスクですか。(4ページ参照)
- SA-CD/CDプレーヤー動作ですか。(12ページ参照)

音がでない。またはレベルが低い

- **INPUT** ボタンを確認します。
- 出力コードが正しくアンプに接続されていますか。
- アンプ側のスイッチ類やボリュームの確認をします。
- リモート・コマンダーのLEVELボタンで出力レベルを確認します。

音が途切れたり雑音が出る。 演奏途中でディスクが止まる

- ディスクに反り、汚れ、傷はありませんか。
- 接続コードのプラグの汚れ、接触を点検します。
- 光ファイバーはJEITA規格品ですか。
(規格に適合しないものは正常な動作ができません)

片側から音が出ない

- 出力コードを左右入れ替えます。

同側側から音がでない …… アンプ側に原因が考えられます。 左右逆になる ……………… 本機あるいは出力コードに原因が考えられます。

外部接続機器の出力がない

- プロセッサー動作ですか。……………**INPUT** ボタンを確認します。
- 選択した入力信号のロックはされていますか。(22ページ参照)
HS-Link、光ファイバー、同軸それぞれ接続したケーブルをお確かめください。

電源ON時、自動的に演奏が始まる

- 機能設定で、タイマー演奏の〈Power On Play〉がONになっていませんか。
(13ページ参照)

リモート・コマンダーで操作できない

- 電池は入っていますか。
- 電池の極性は⊕(プラス)と⊖(マイナス)が正しく合っていますか。
- 新しい電池に交換してみましょう。
- 受光部付近に障害物はありませんか。
- テレビやインバータ照明等の近くに設置していませんか。お互いに離すか、置く向きを変えてみます。

11. アフターサービスについて

保証書

- 保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたしますので、当社品質保証部に必ずご返送ください。
- 「お客様カード」の「お客様情報欄」には付属の「目隠しシール」を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。
- 「お客様カード」の登録をされていない場合、購入日は当社からの出荷日が適用されます。
- 保証書登録は付属の「お客様カード」で行われますが、購入が不適切な場合は登録できないことがあります。
- 保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。
- オプション・ボードやオプション・ユニットには「お客様カード」は付属していません。

保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後最低8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



注意

保証期間以降、長期に渡って安全にご使用いただくために、当社での定期的な点検を行ってください。内容については当社品質保証部にご相談ください。

その他

- 改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- **保証は日本国内のみ適用されます。**
Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川 2-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理の問い合わせが可能です。
<http://www.accuphase.co.jp/>

修理依頼の場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご住所、氏名、電話番号
- ご購入日、ご購入店
- 故障状況:できるだけ詳しく

※梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY, INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2-14-10

〒225-8508 TEL (045) 901-2771(代)

<http://www.accuphase.co.jp/>